

長野市子どもの生活状況に関する実態調査 分析結果の概要

1

I 市民アンケート調査

2

市民アンケート調査【調査の概要】

調査の概要

目的	子どもや家庭の生活・経済状態、将来の貧困に影響を与える可能性のある行動実態、子どもの貧困対策に関連する施策の利用状況等を把握することを通じ、子どもの貧困対策を進めるに当たっての課題や施策の効果等を確認するための基礎資料を得ることを目的として実施
対象	4～5歳の保護者 小学5年生、中学2年生、16～17歳の子どもとその保護者 各1,200人、4,800家庭
実施方法	令和3年10月1日時点の住民基本台帳から対象者を無作為抽出し、返信用封筒を同封した調査票を郵送(無記名)
調査内容	経済・就労状況、学習環境、生活習慣、親子関係、将来展望、台風19号災害や新型コロナウイルス感染症拡大による生活等への影響、支援の状況など
期間	令和3年10月18日(月)から11月3日(水)まで
有効回答数・率	保護者 1,966人・41.0% 子ども 1,250人・34.7%

【分析の方法】

保護者や子どもの生活状況について、「生活困難度」別(次シート「考え方」参照)と「家庭状況(親の婚姻状況)」別に、比較して分析を行いました。

※本資料で使用しているグラフは、「長野市子どもの生活状況に関する実態調査結果報告書」から抜粋したもので、一部については項目を省略するなど調整を行っています。

3

市民アンケート調査【生活困難度の考え方】

生活困難度の考え方

子どものいる家庭の「生活困難度」を、「所得の状況(低所得)」だけでなく、「家計の逼迫」、「子どもの体験や所有物の欠如」を加えた3つの要素から捉える。

(長野県が平成29年度に実施した「長野県子どもと子育て家庭の生活実態調査」の結果分析を参考)

①低所得	1人当たりの所得(世帯の所得を世帯人数で調整して算出した等価可処分所得)が、貧困線(等価可処分所得の中央値の2分の1) [※] に満たない場合 ※令和元年国民生活基礎調査による127万円を使用
②家計の逼迫	経済的な理由で公共料金等(電話・電気・ガス・水道)や家賃を支払えなかった経験、食料・衣服を買えなかった経験が1つ以上ある場合
③子どもの体験や所有物の欠如	子どもの体験や所有物などに関する15項目 [※] のうち、経済的な理由で剥奪されている項目が3つ以上ある場合 ※遊園地やテーマパークに行く、習い事に通わせる、学習塾に通わせる、自宅で勉強できる場所など

2つ以上の要素に該当	困窮家庭
いずれか1つの要素に該当	周辺家庭
いずれの要素にも該当しない	一般家庭

4

市民アンケート調査結果のまとめ

市民アンケート調査結果のまとめ

1. 本市においても、生活に困難を抱える家庭や子どもが一定数いることが確認された。

- ・約11人に1人の子どもが、家庭が低所得であったり、経済的な理由で経験の機会が失われている状況などにある。

(子どものいる家庭の9.0%が「困窮家庭」に該当)

- ・約9人に1人の子どもが、国の水準の相対的な貧困の状況に該当する。

(国の貧困線を下回る水準で生活している子どもの割合が11.2%※)

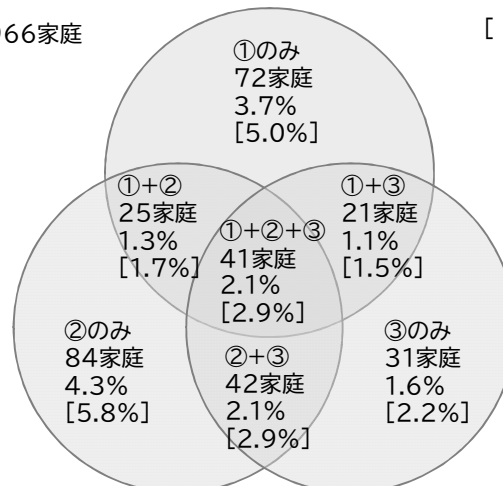
※調査方法等が異なるため国の貧困率とは単純な比較はできない

生活困難度を把握する
3要素と構成割合

①低所得
②家計の逼迫
③子どもの体験や所有物の欠如
困窮家庭:①②③のうち2つ以上の要素に該当
周辺家庭:①②③いずれか1つの要素に該当
一般家庭:①②③いずれの要素にも該当しない

全体1,966家庭

[]:判別不能を除いた割合



いずれの要素にも該当しない
1,121家庭
57.0%
[78.0%]

判別不能(無回答)
529家庭
26.9%

市民アンケート調査結果のまとめ

- ひとり親家庭の親子は、ふたり親家庭に比べ、より困難な状況にある。
・経済的な困窮に加え、相談相手が不在、親子で過ごす時間の確保が難しいなど
- 家庭の所得水準の低さや、ひとり親家庭であることにより、子どもの学習や経験など生活の様々な場面で機会が奪われていたり、心理面にも負の影響を及ぼしている。
- 子どもが将来大人になったときに貧困に陥る「貧困の連鎖」の可能性が高くなっている。

7

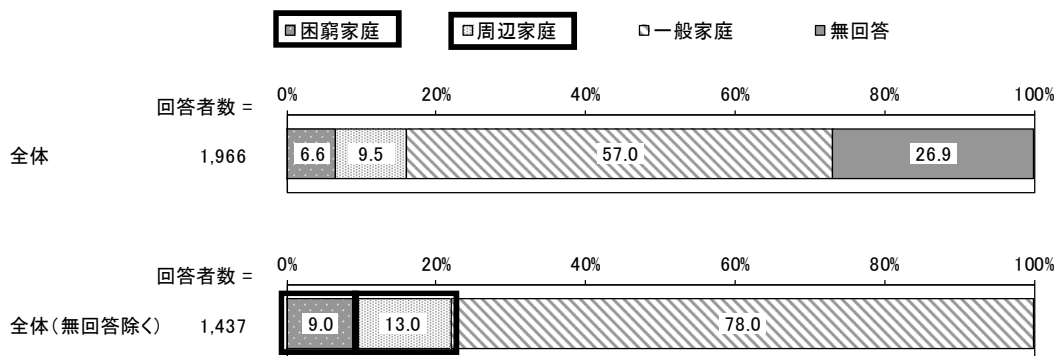
生活困難家庭の割合

生活困難家庭の割合

○ 生活困難度別の家庭数の割合は、困窮家庭に該当するのが6.6%、周辺家庭に該当するのが9.5%、一般家庭に該当するのが57.0%、無回答(判別不能)が26.9%となっている。

※無回答(判別不能)を除いた割合: 困窮家庭9.0%、周辺家庭13.0%、一般家庭78.0%

参考 長野県(H29): 困窮家庭9.3%、周辺家庭15.2%、一般家庭59.9%、無回答15.6%



8

国の貧困線に満たない家庭で生活する子どもの割合

国の貧困線に満たない家庭で生活する子どもの割合

○ 生活困難度を捉える3つの要素のうち「①低所得」に該当する(=国の貧困線に満たない家庭で生活する)子どもの割合は、全体では10.4%、4~5歳が10.0%、小学5年生が8.0%、中学2年生が12.7%、16~17歳が11.5%となっている。

※判別不能を除いた割合:全体11.2%、4~5歳10.9%、小学5年生8.7%、中学2年生13.4%、16~17歳12.2%

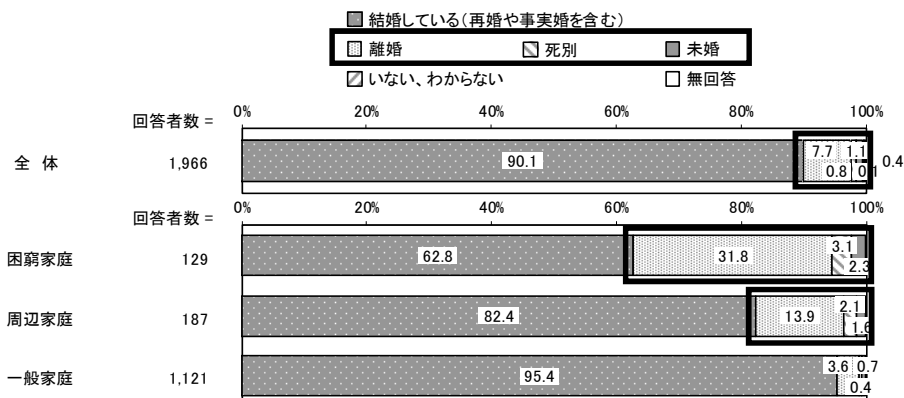
子どもの年齢区分	割合	判別不能を除いた割合
全体	10.4%	11.2%
4~5歳	10.0%	10.9%
小学5年生	8.0%	8.7%
中学2年生	12.7%	13.4%
16~17歳	11.5%	12.2%

- 「国の貧困線に満たない家庭で生活する子どもの割合」は、国において相対的貧困率を算出する際に用いている貧困線※を基に算出したものであり、本市での家庭所得の額・分布を用いて貧困線を定め、本市における相対的貧困率を算出したものではありません。
※令和元年国民生活基礎調査による127万円
- 令和元年国民生活基礎調査では、我が国の子どもの貧困率は13.5%とされていますが、本調査とは調査対象や方法が異なるため、単純な比較はできません。

ひとり親家庭の割合／ひとり親家庭の生活困難度別の割合

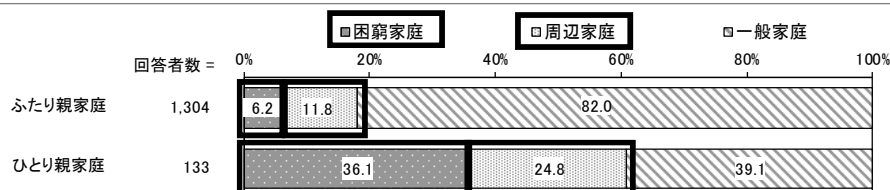
ひとり親家庭の割合

○ 子どもの親の婚姻状況は、「結婚している(再婚や事実婚を含む)」が90.1%、「離婚」、「死別」、「未婚」を合わせた「ひとり親家庭」は9.6%となっている。困窮家庭、周辺家庭では「ひとり親家庭」の割合が高くなっている。



ひとり親家庭の生活困難度別の割合

○ ふたり親家庭では、困窮家庭が6.2%、周辺家庭が11.8%であるのに対し、ひとり親家庭では、困窮家庭が36.1%、周辺家庭が24.8%と割合が高くなっている。※判別不能を除く



市民アンケート調査結果から見えてきた 状況や課題

11

暮らしや家計の状況

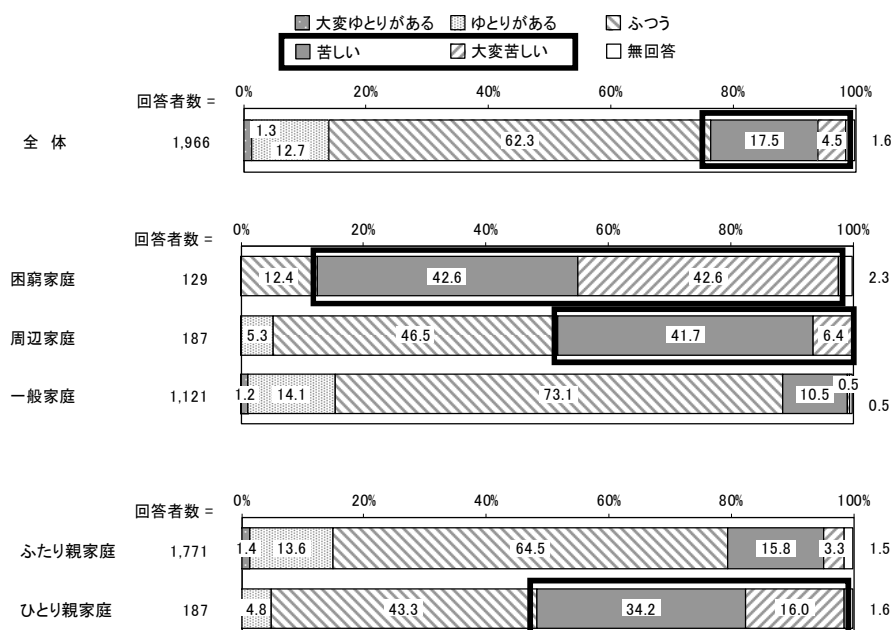
12

○ 困窮家庭やひとり親家庭ほど現在の暮らしが厳しく、日常生活において生活費が不足している状況にある。

暮らしや家計の状況

暮らしの状況についての認識

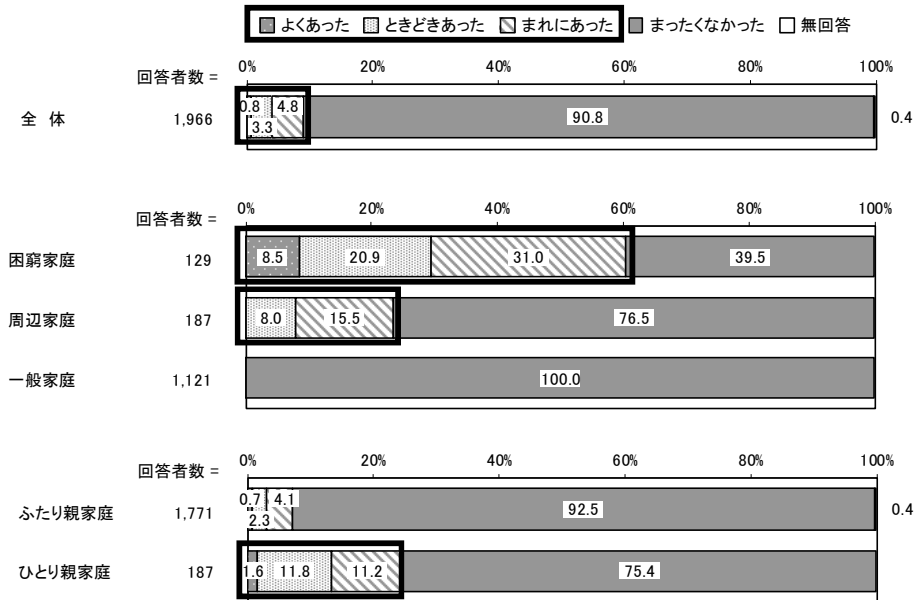
○ 現在の暮らしの状況について「苦しい」と「大変苦しい」を合わせた“苦しい”の割合は、全体では22.0%であるのに対し、困窮家庭では85.2%、周辺家庭では48.1%、ひとり親家庭では50.2%と、全体と比べて高くなっている。



暮らしや家計の状況

食料が買えなかった経験

○ 過去1年の間に、「お金が足りなくて家族が必要とする食料が買えなかった経験」が、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせた“あった”とする割合は、全体では8.9%であるのに対し、困窮家庭では60.4%、周辺家庭では23.5%、ひとり親家庭では24.6%と、全体と比べて高くなっている。

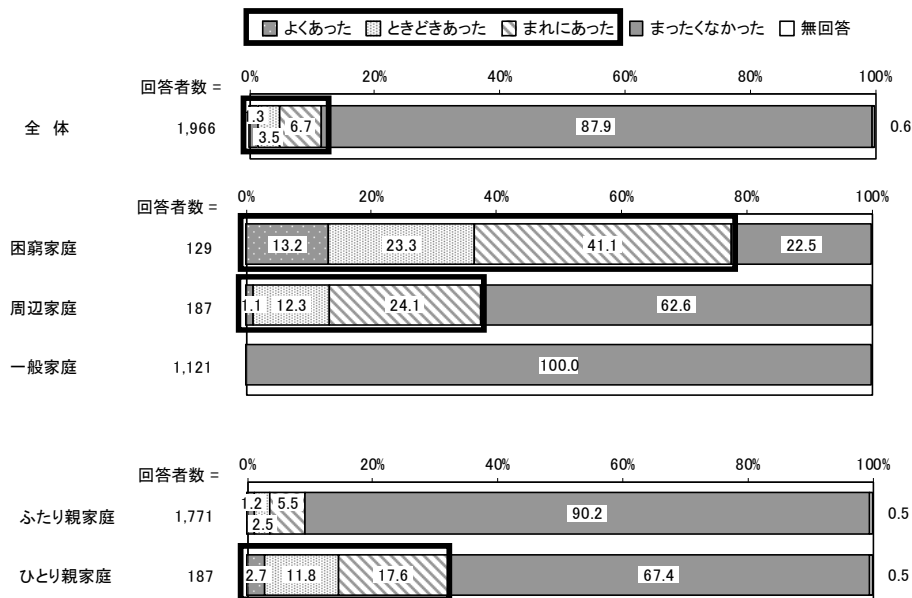


15

暮らしや家計の状況

衣服が買えなかった経験

○ 過去1年の間に、「お金が足りなくて家族が必要とする衣服が買えなかった経験」が、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせた“あった”とする割合は、全体では11.5%であるのに対し、困窮家庭では77.6%、周辺家庭では37.5%、ひとり親家庭では32.1%と、全体と比べて高くなっている。

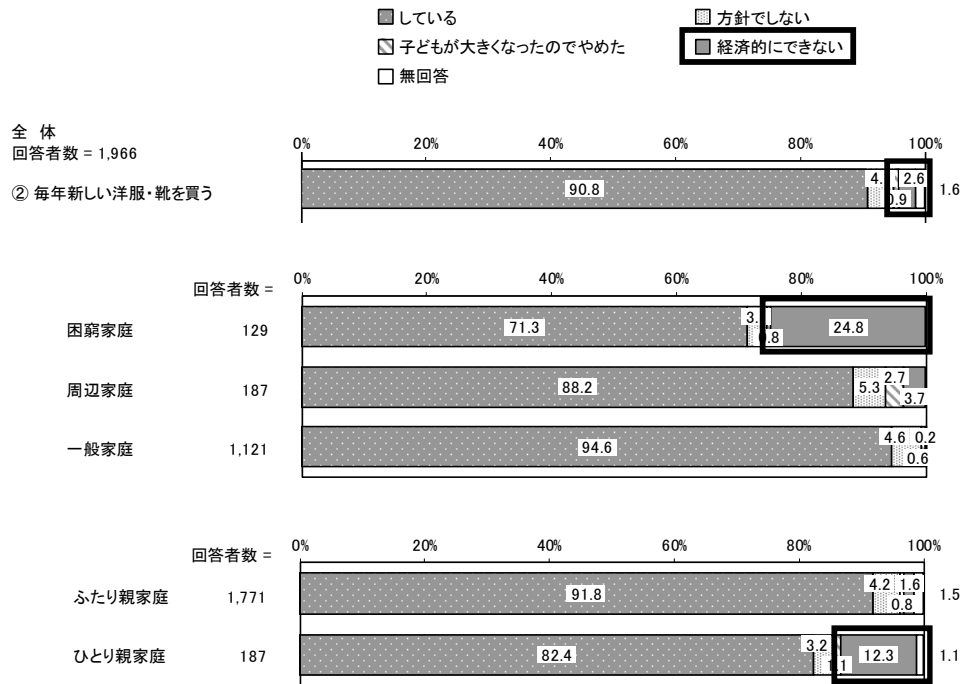


16

暮らしや家計の状況

子どもに毎年新しい洋服・靴を買うこと

○ 子どもに「毎年新しい洋服・靴を買う」ことが「経済的にできない」と回答した割合は、全体では2.6%であるのに対し、困窮家庭で24.8%、ひとり親家庭で12.3%と、全体と比べて高くなっている

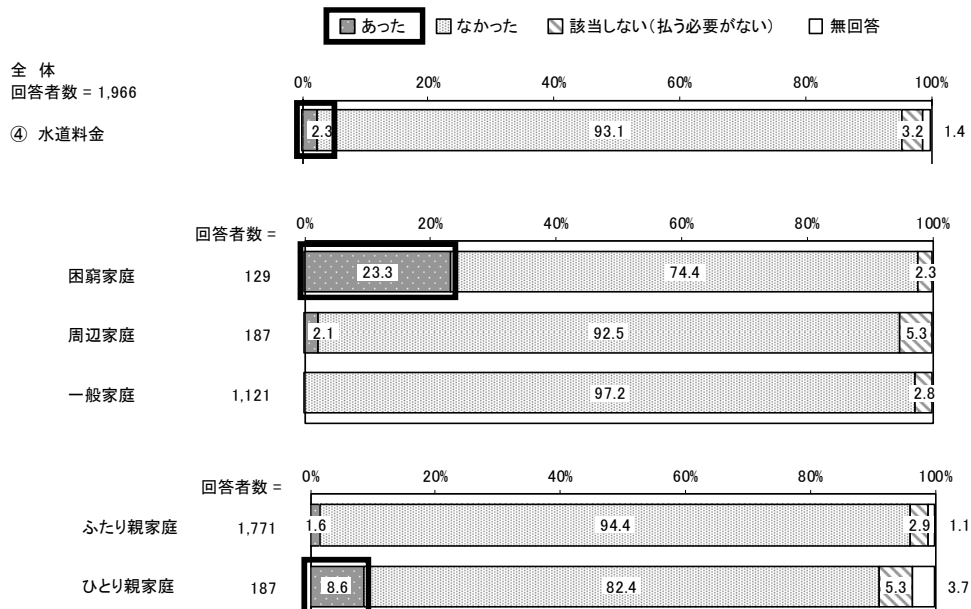


17

暮らしや家計の状況

公共料金の支払い(水道料金)

○ 過去1年の間に、経済的な理由で「水道料金を支払えなかったこと」が、「あった」とする割合は、全体では2.3%であるのに対し、困窮家庭では23.3%、ひとり親家庭では8.6%と、全体と比べて高くなっている。



18

保護者の生活状況

19

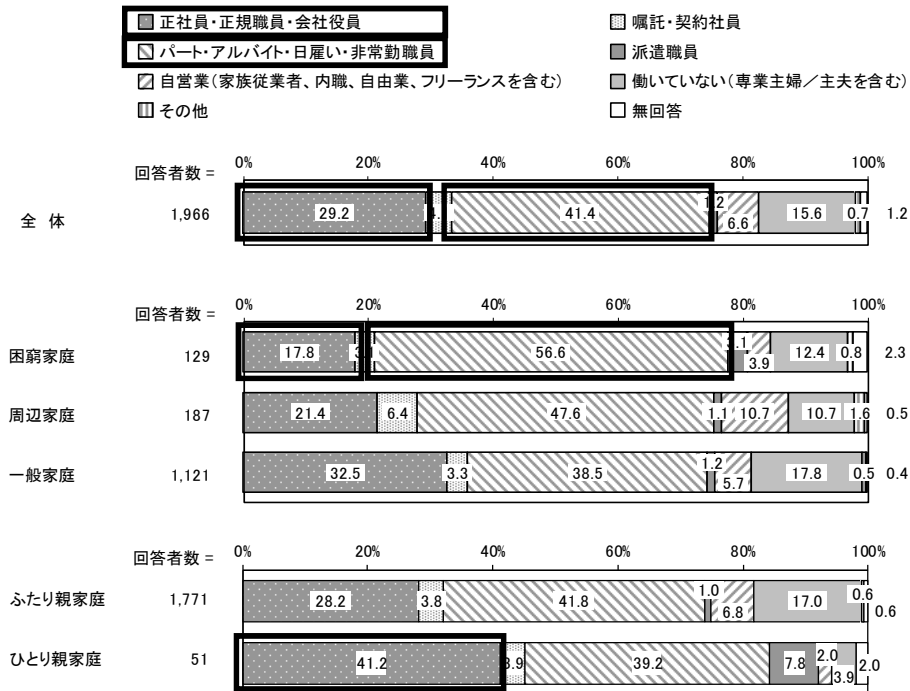
○ 困窮家庭では保護者の正規雇用の割合が低く、就労していても不安定で低所得となりやすい状況にある。

20

保護者の生活状況【就労の状況】

母親の就労状況

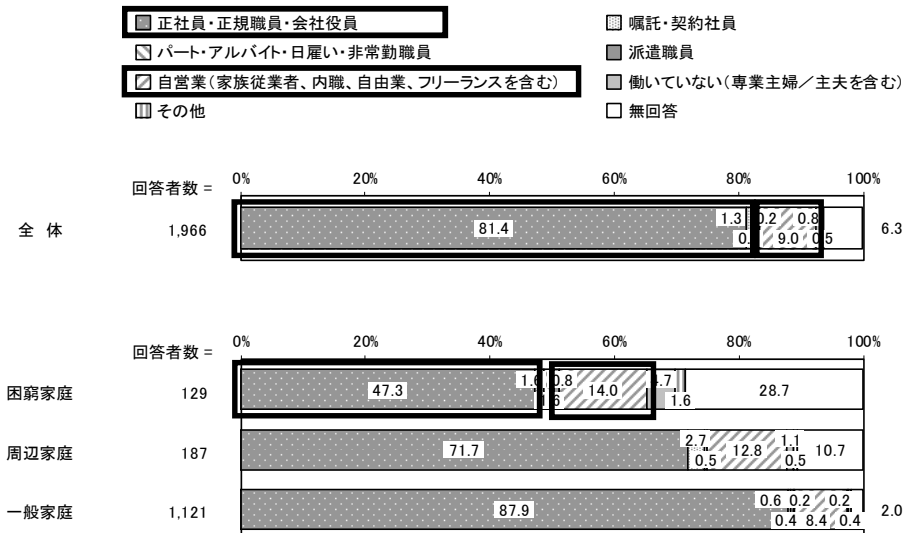
○「母親」の就労状況について、困窮家庭では「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が56.6%と全体の41.4%と比べて高くなっており、「正社員・正規職員・会社役員」は17.8%と全体の29.2%と比べて低くなっている。ひとり親家庭では「正社員・正規職員・会社役員」が41.2%と全体と比べて高くなっている。



保護者の生活状況【就労の状況】

父親の就労状況

○「父親」の就労状況について、困窮家庭では「正社員・正規職員・会社役員」が47.3%と全体の81.4%と比べて低くなっており、自営業(家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む)が14.0%と全体の9.0%と比べて高くなっている。

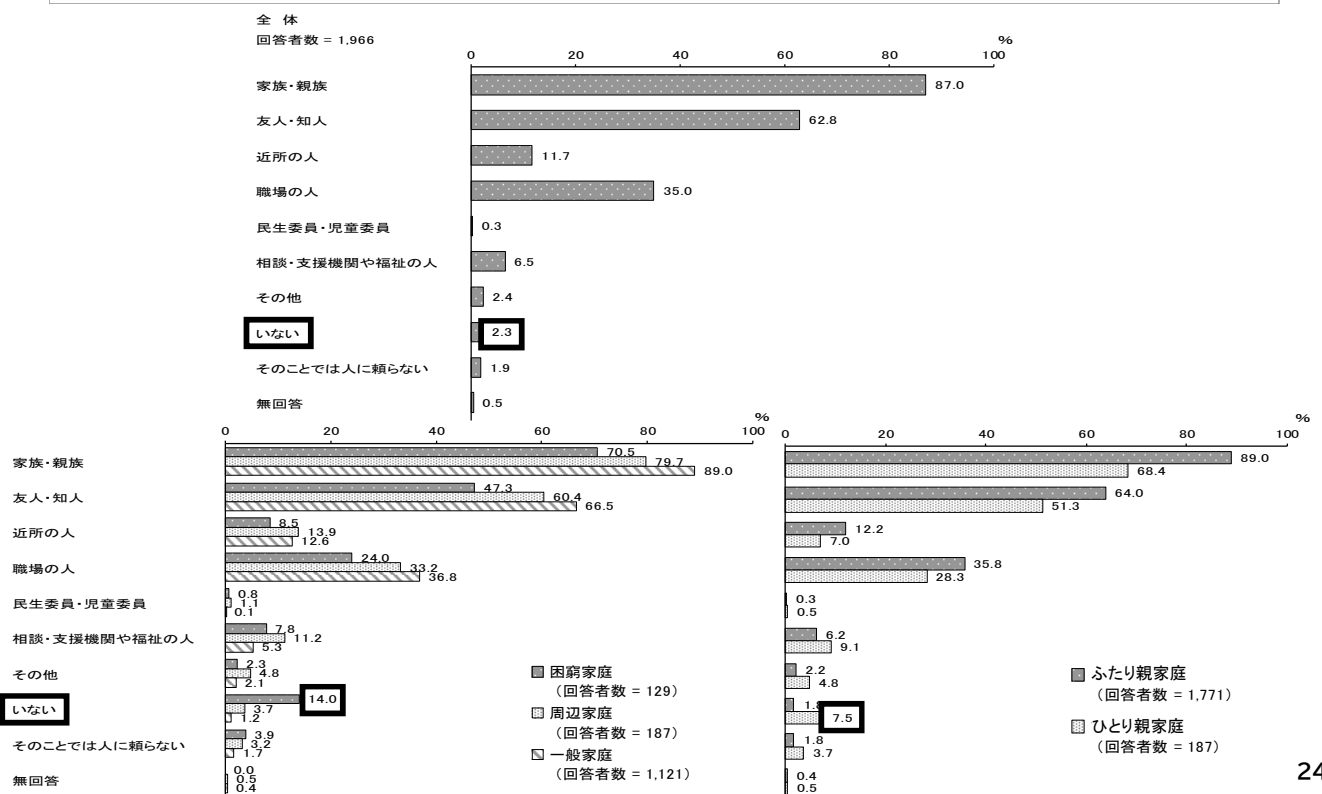


○ 困窮家庭やひとり親家庭の保護者ほど身近に相談相手がない傾向があり、孤立している可能性がある。

保護者の生活状況【頼れる人の有無・相手】

子育てに関する相談相手

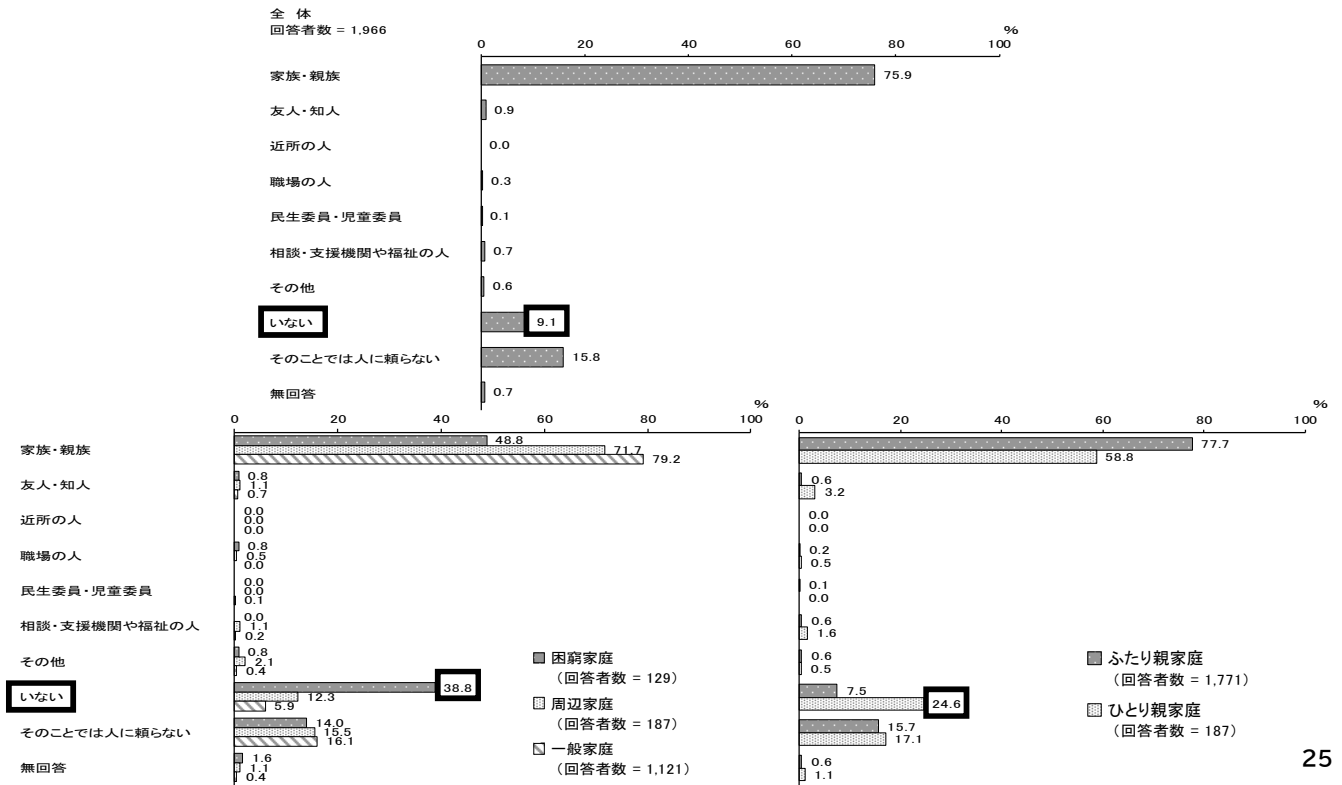
○ 「子育てに関する相談できる人」について、「いない」の割合は、全体では2.3%であるのに対し、困窮家庭では14.0%、ひとり親家庭では7.5%と、全体と比べて高くなっている。



保護者の生活状況【頼れる人の有無・相手】

いざという時のお金の援助の相手

○「いざという時のお金の援助に関して頼れる人」について、「いない」の割合は、全体では9.1%であるのに対し、困窮家庭では38.8%、ひとり親家庭では24.6%と、全体と比べて高くなっている



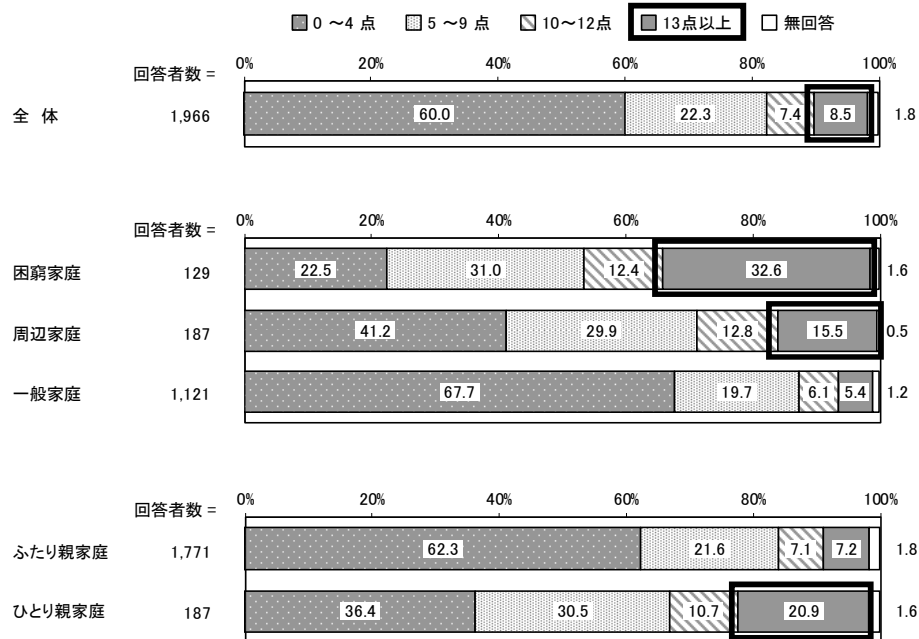
○ 精神的ストレスを抱えていたり健康状態が不安定な保護者ほど生活や就労が難しい状況にあることがうかがえる。

保護者の生活状況【心理的な状態】

うつ・不安障害の傾向

○「うつ・不安障害相当」の状態にあると考えられる保護者の割合は、全体では8.5%であるのに対し、困窮家庭で32.6%、周辺家庭で15.5%、ひとり親家庭で20.9%と、全体と比べて高くなっている。

※「K6」と呼ばれる抑うつ状態を測る指標を把握するための6つの調査項目を設定し、6つの項目の結果を足し合わせてK6のスコアを算出(0~24点)した。「13点以上」が「うつ・不安障害相当」とされている。

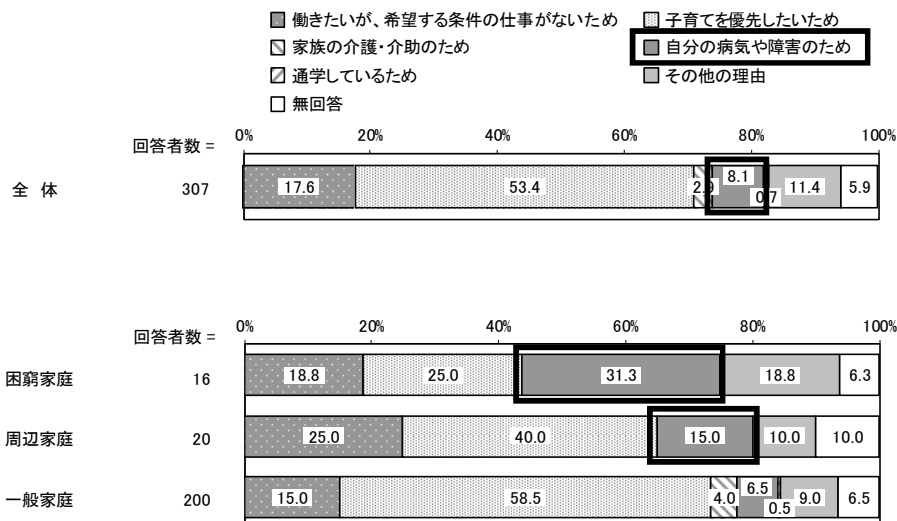


27

保護者の生活状況【就労の状況】

母親が働いていない理由

○ 母親が働いていない理由として「自分の病気や障害のため」と回答した割合は、全体では8.1%であるのに対し、困窮家庭では31.3%、周辺家庭では15.0%と、全体と比べて高くなっている。



28

子どもの生活状況

29

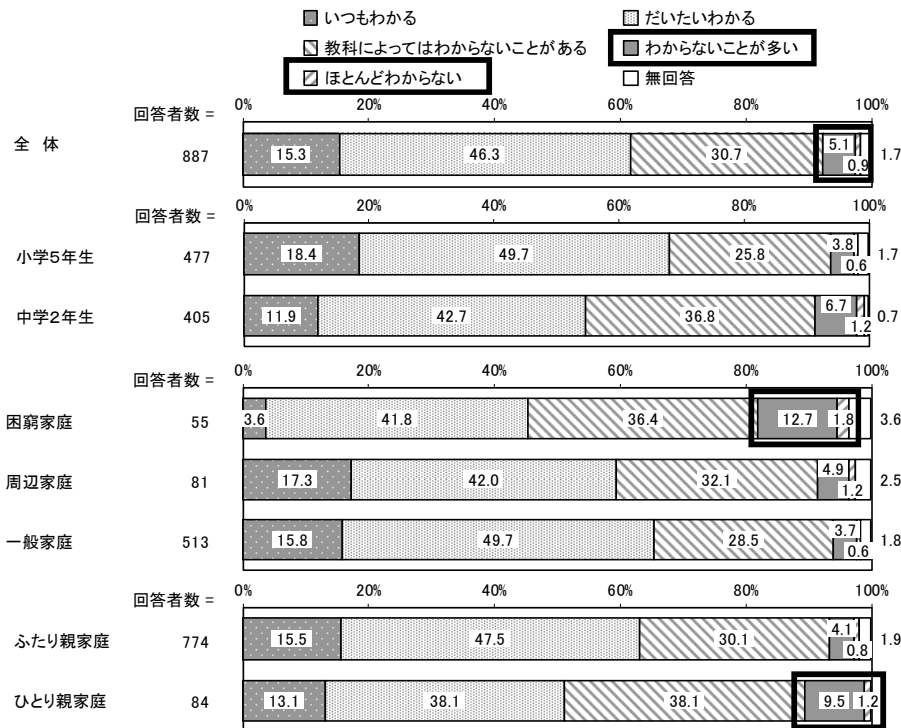
○ 困窮家庭やひとり親家庭の子どもほど授業の理解度、成績が低く、学校以外の学習機会も限られているほか、自宅に勉強をする場所がなく、大学へ進学を希望する割合も少なくなっている。

30

子どもの生活状況【学習の状況】

授業の理解状況(小5・中2)

○ 学校の授業について「わからないことが多い」と「ほとんどわからない」を合わせた割合は、全体では6.0%(小5:4.4%・中2:8.9%)であるのに対し、困窮家庭では14.5%、ひとり親家庭では10.7%と、全体と比べて高くなっている。

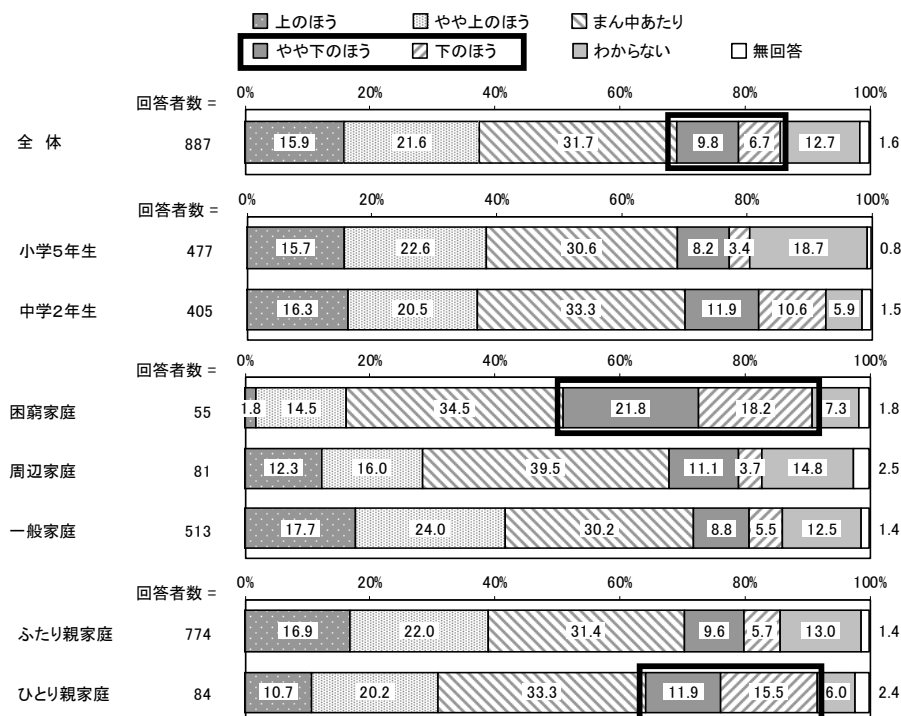


31

子どもの生活状況【学習の状況】

クラスの中での成績(小5・中2)

○ クラスの中での成績について「やや下のほう」と「下のほう」を合わせた割合は、全体では16.5%(小5:11.6%・中2:22.5%)であるのに対し、困窮家庭では40.0%、ひとり親家庭では27.4%と、全体と比べて高くなっている。

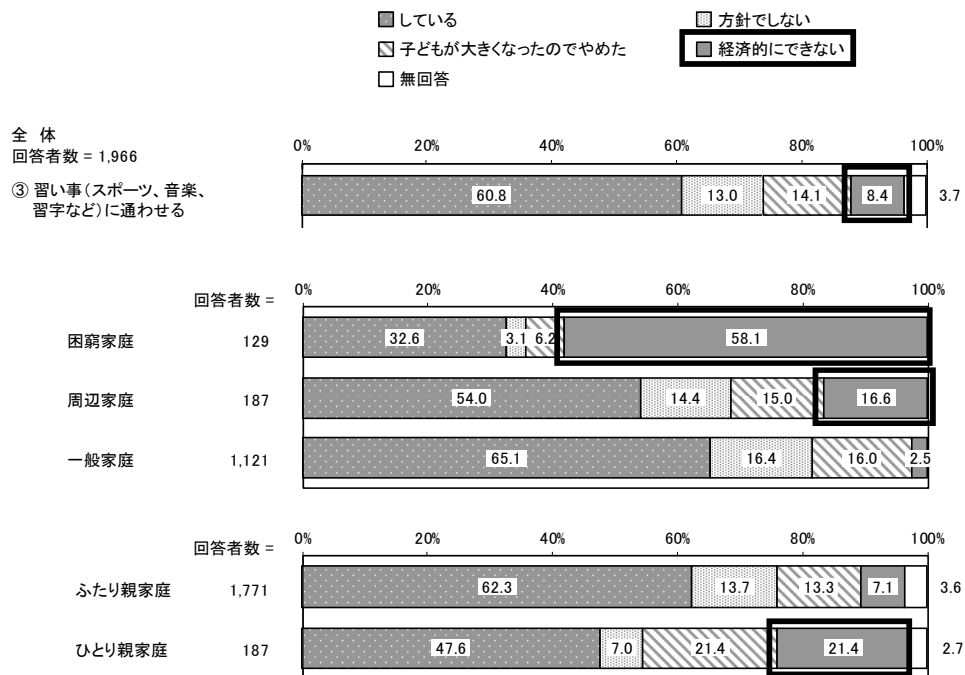


32

子どもの生活状況【子どもの消費行動】

習い事に通うこと

○ 子どもを「習い事に通わせる」ことが、「経済的にできない」と回答した保護者の割合は、全体では8.4%であるのに対し、困窮家庭で58.1%、周辺家庭で16.6%、ひとり親家庭で21.4%と、全体と比べて高くなっている。

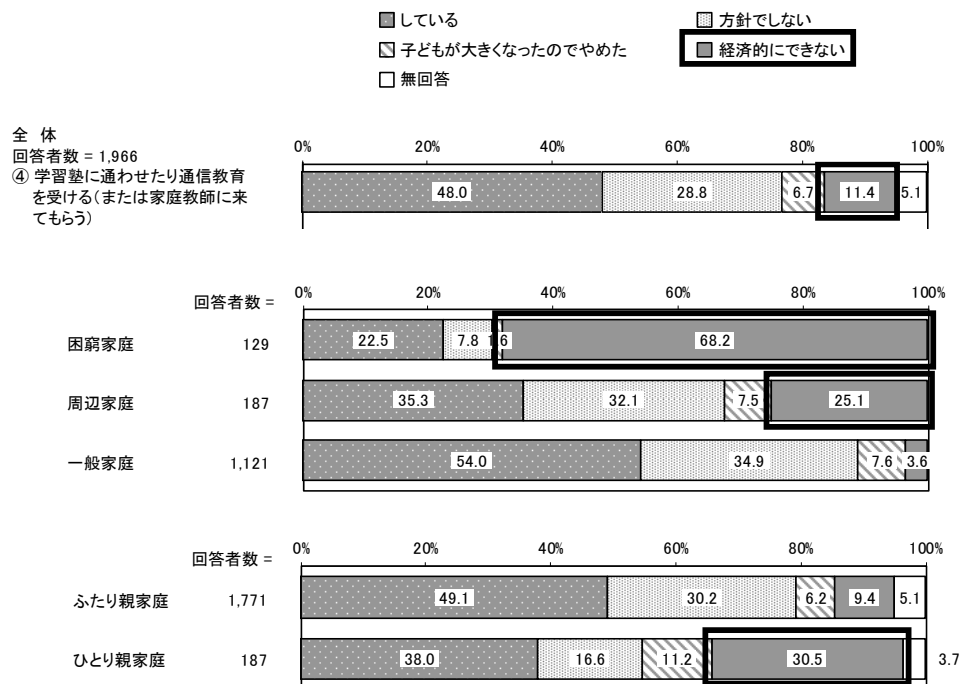


33

子どもの生活状況【子どもの消費行動】

学習塾に通ったり通信教育を受けること

○ 子どもを「学習塾に通わせたり通信教育を受ける」ことが、「経済的にできない」と回答した保護者の割合は、全体では11.4%であるのに対し、困窮家庭で68.2%、周辺家庭で25.1%、ひとり親家庭で30.5%と、全体と比べて高くなっている。

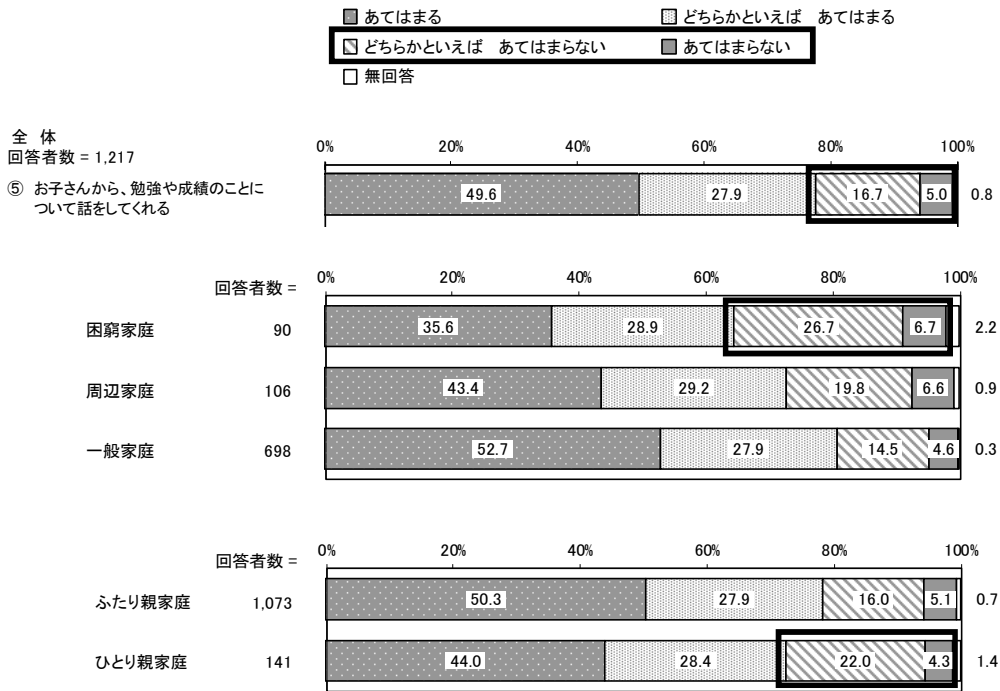


34

子どもの生活状況【親子の関わり方】

勉強や成績のことについての話

○ 子どもとの関わり方に関して、「お子さんから勉強や成績のことについて話をしてくれる」かについて、「どちらかといえば、あてはまらない」と「あてはまらない」を合わせた保護者の割合は、全体では21.7%であったのに対し、困窮家庭では33.4%、ひとり親家庭では26.3%と、全体と比べて高くなっている。

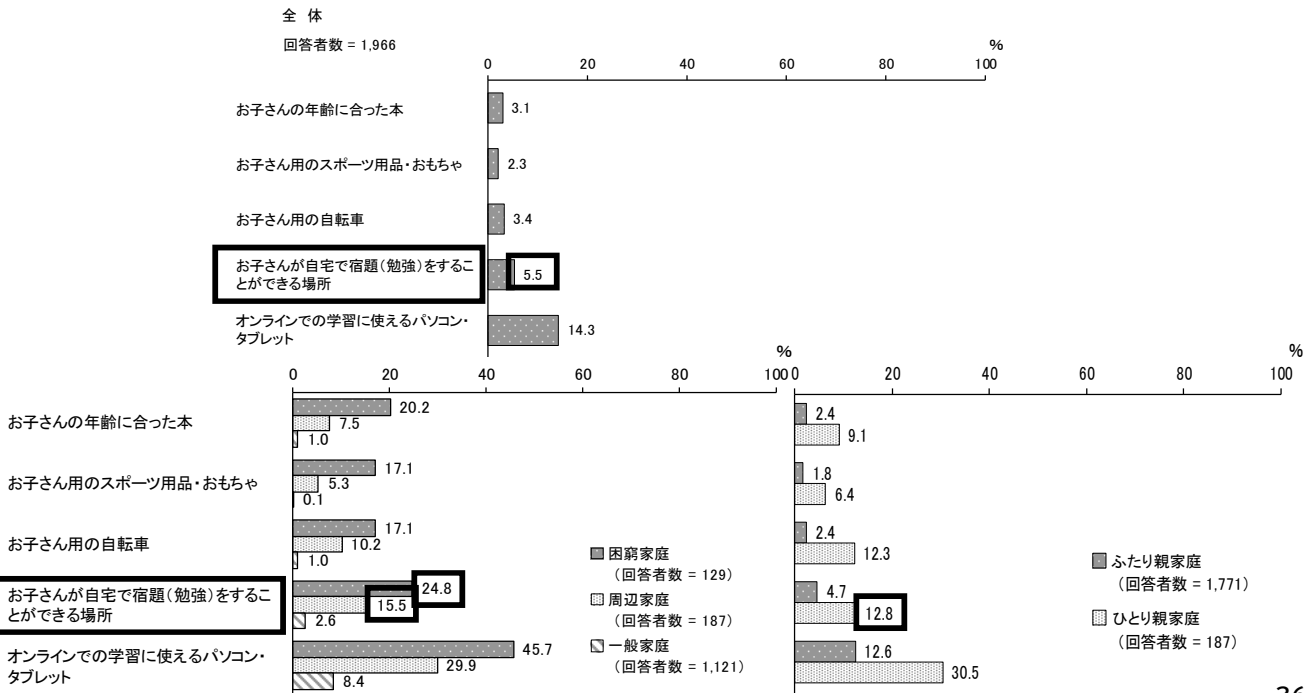


子どもの生活状況【経済的な理由で家庭にないもの】

子どもが自宅で宿題(勉強)をすることができる場所等

○ 経済的な理由のために家庭に「子どもが宿題(勉強)をすることができる場所」が「ない」と回答した保護者の割合は、全体では5.5%であるのに対し、困窮家庭で24.8%、周辺家庭で15.5%、ひとり親家庭で12.8%と、全体と比べて高くなっている。

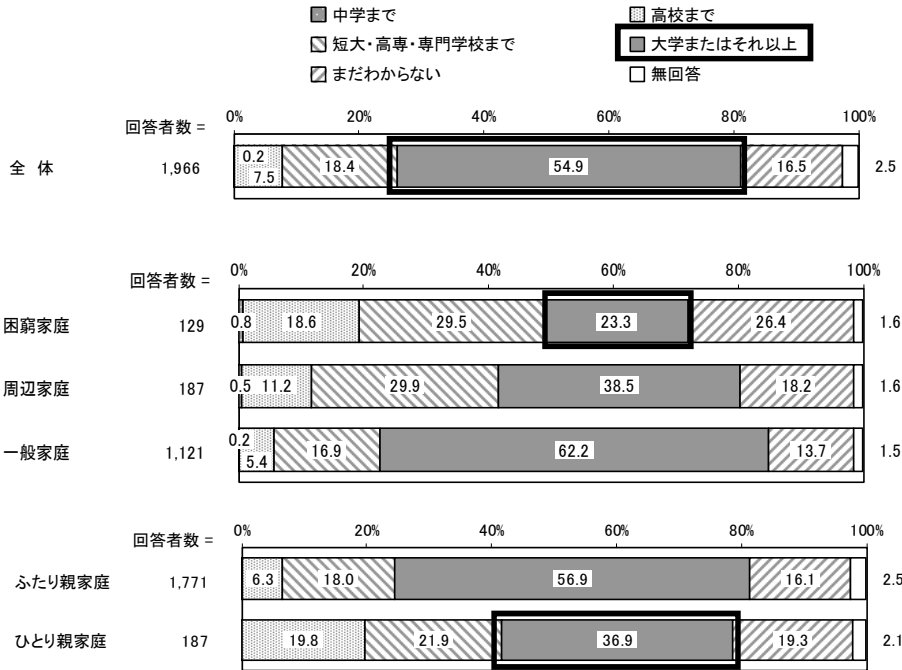
※その他に、「子どもの年齢に合った本」「オンラインでの学習に使えるパソコン・タブレット」なども同じ傾向



子どもの生活状況【進学期待・展望】

子どもの進学段階に関する保護者の希望・展望

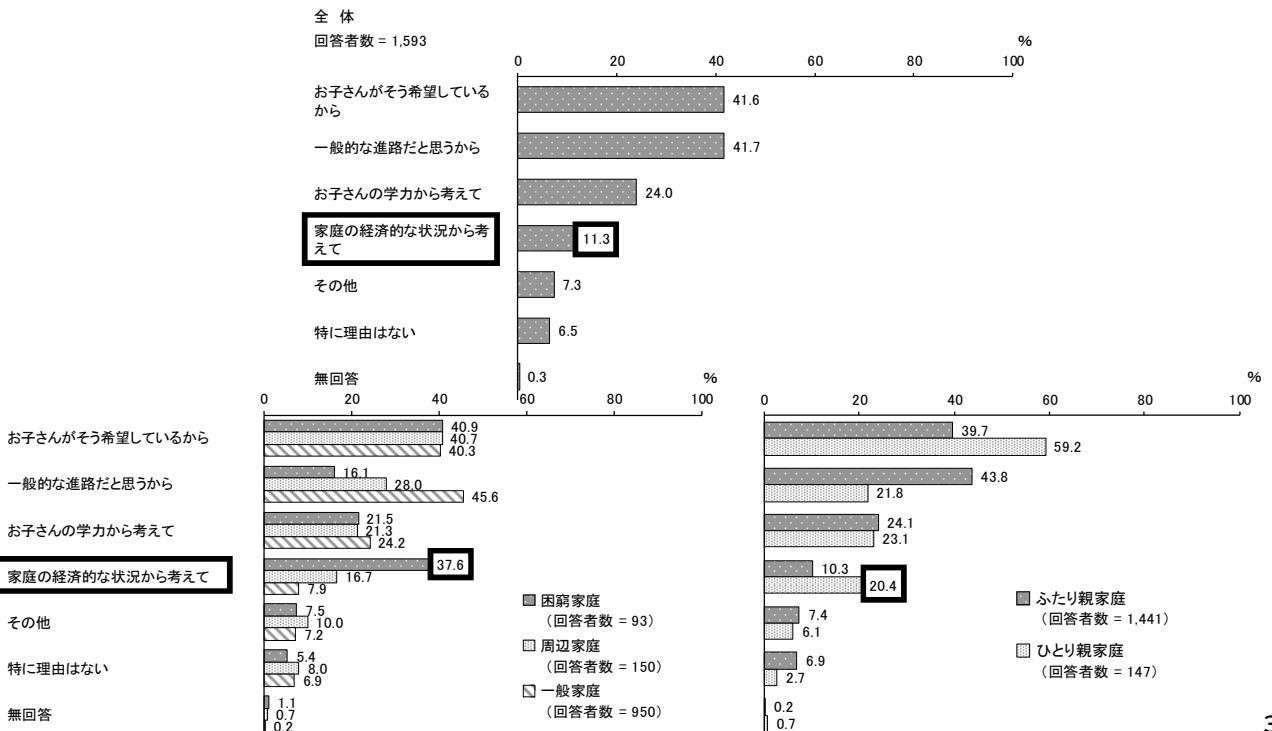
○ 子どもが将来どの段階まで進学するか希望・展望に関して「大学またはそれ以上」と回答した割合は、全体では54.9%であるのに対し、困窮家庭では23.3%、ひとり親家庭では36.9%と、全体と比べて低くなっている。



子どもの生活状況【進学期待・展望】

進学段階に関する希望・展望について保護者がそう考える理由

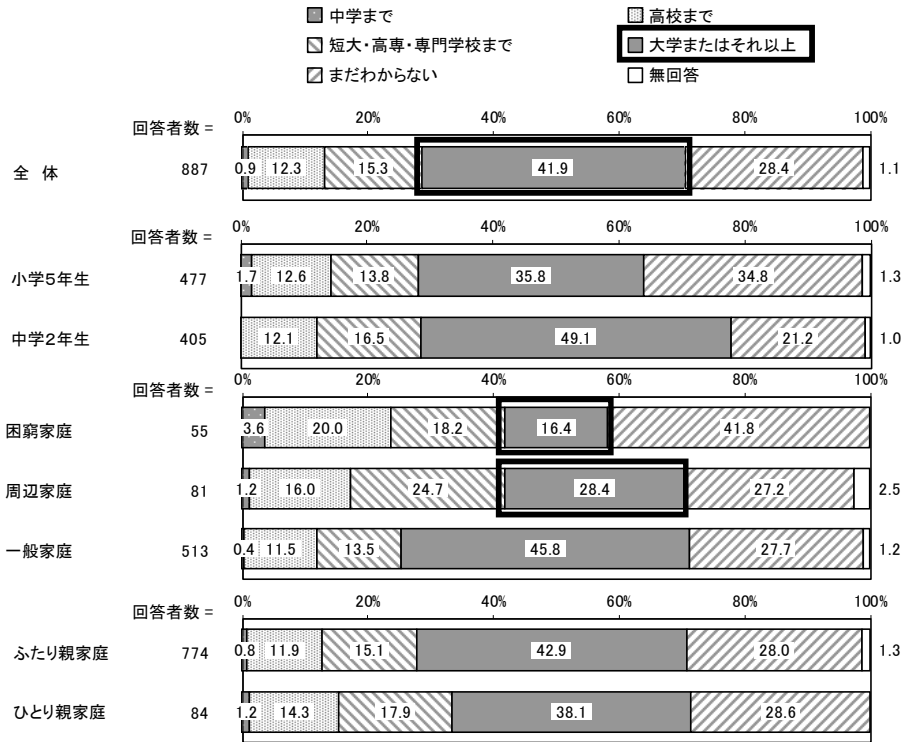
○ 子どもの進学段階について「中学まで」～「大学またはそれ以上」と考える理由として「家庭の経済的な状況から考えて」と回答した保護者の割合は、全体では11.3%であるのに対し、困窮家庭では37.6%、ひとり親家庭では20.4%と、全体と比べて高くなっている。



子どもの生活状況【進学希望】

進学したいと思う教育段階(小5・中2)

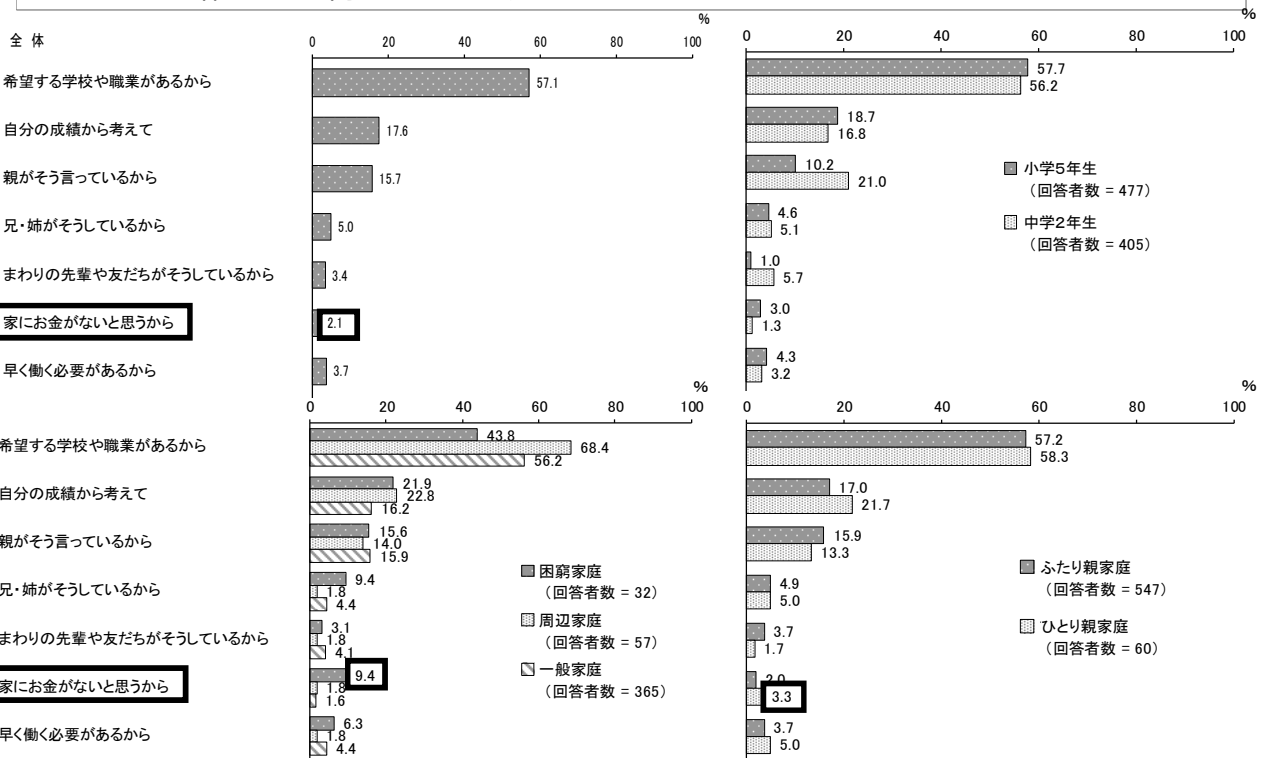
○ 将来、進学したい段階を「大学またはそれ以上」と回答した割合は、全体では41.9%(小5:35.8%・中2:49.1%)であるのに対し、困窮家庭では16.4%、周辺家庭では28.4%と、全体と比べて低くなっている。



子どもの生活状況【進学希望】

進学希望の教育段階についてそう考える理由(小5・中2)

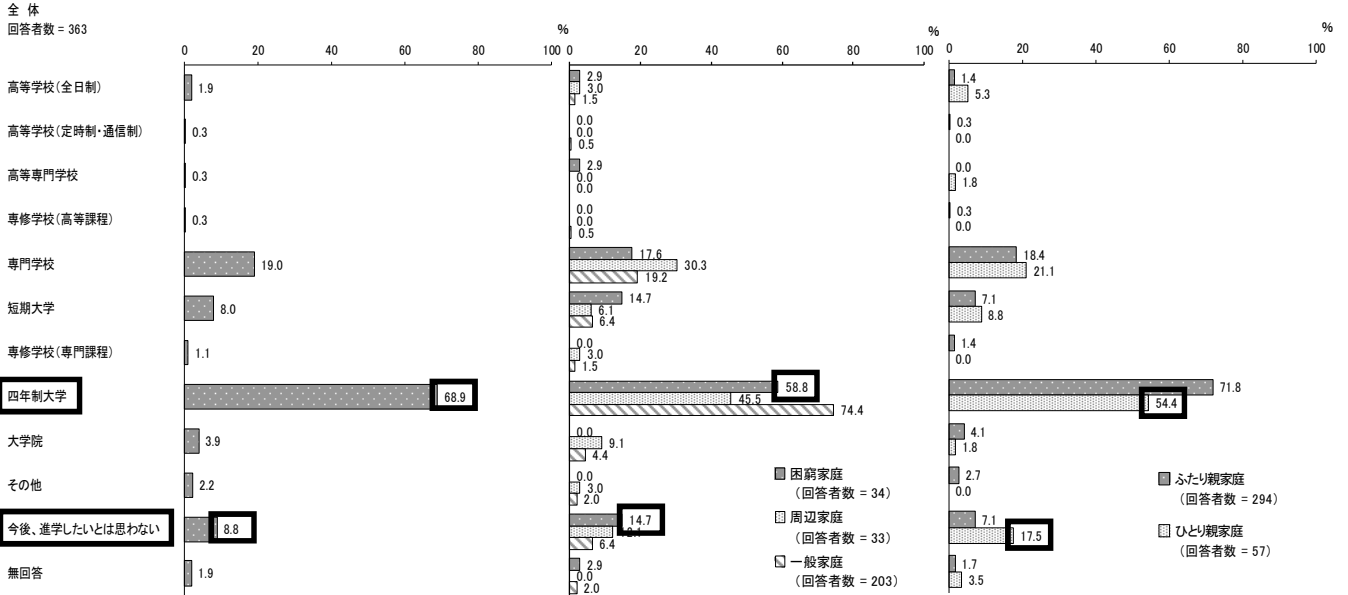
○ 「中学まで」～「大学またはそれ以上」と選んだ理由を「家にお金がないと思うから」と回答した割合は、全体では2.1%(小5:3.0%・中2:1.3%)であるのに対し、困窮家庭では9.4%、ひとり親家庭では3.3%と、全体と比べて高くなっている。



子どもの生活状況【進学希望】

進学したいと思う教育段階(16~17歳)

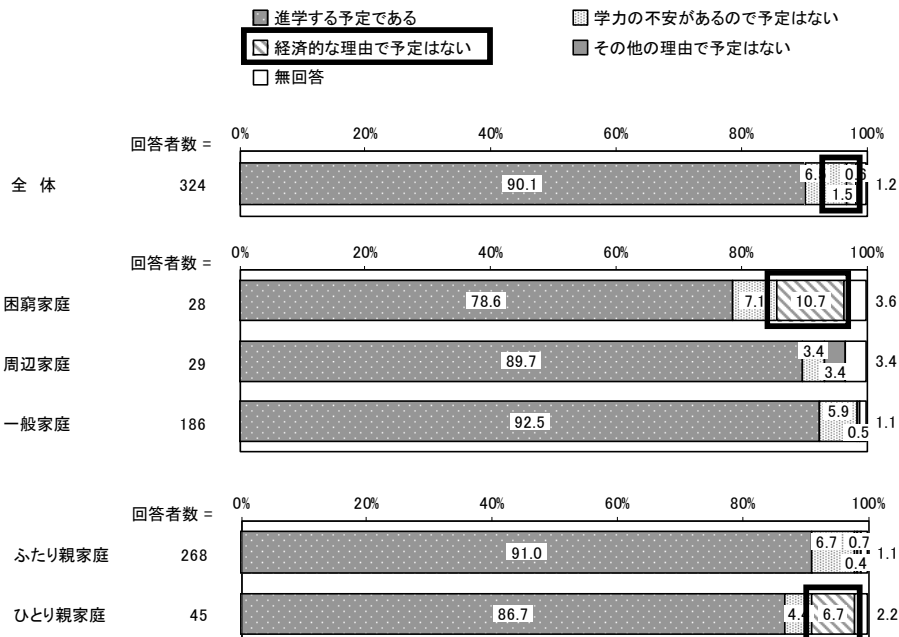
○ 今後、通いたいと希望する学校を「四年制大学」と回答した割合は、全体では68.9%であるのに対し、困窮家庭では58.8%、ひとり親家庭では54.4%と、全体と比べて低くなっている。
 「今後、進学したいと思わない」と回答した割合は、全体では8.8%であるのに対し、困窮家庭では14.7%、ひとり親家庭では17.5%と、全体と比べて高くなっている。



子どもの生活状況【進学希望】

進学希望の教育段階についてそう考える理由(16~17歳)

○ 今後の進学を希望する人のうち、希望する学校に進学する予定は「経済的な理由でない」と回答した割合は、全体では1.5%であるのに対し、困窮家庭では10.7%、ひとり親家庭では6.7%と、全体と比べて高くなっている。

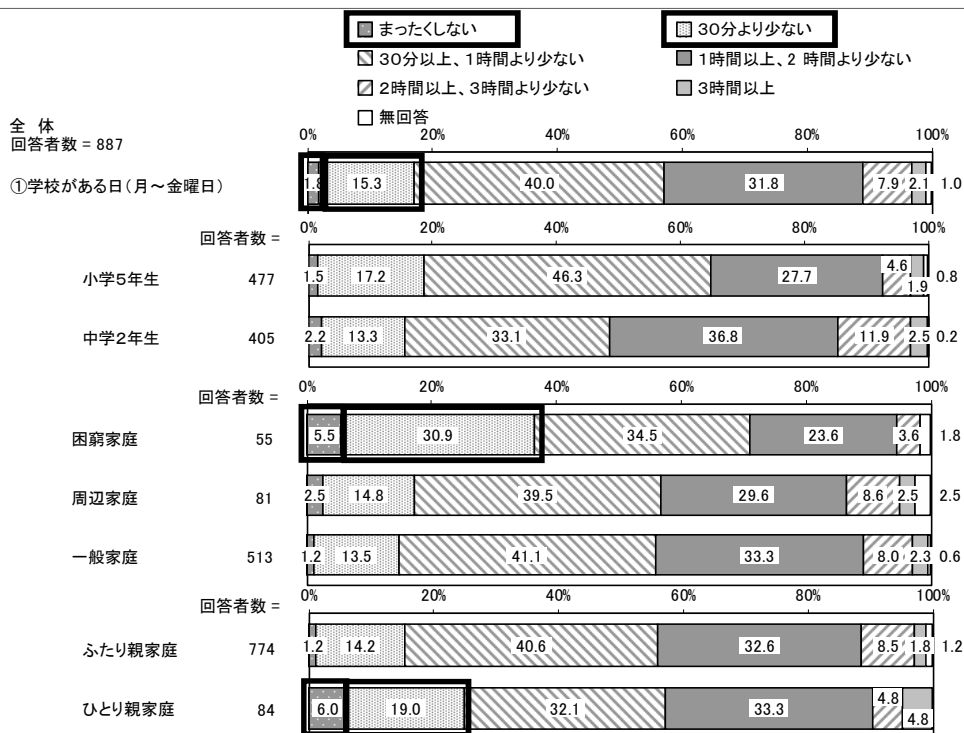


○ 困窮家庭やひとり親家庭の子どもほど学習習慣が身についておらず、食事や就寝などの生活習慣が整っていないほか、外出や文化的な体験ができていない。

子どもの生活状況【学習習慣】

1日あたりの勉強時間(小5・中2)

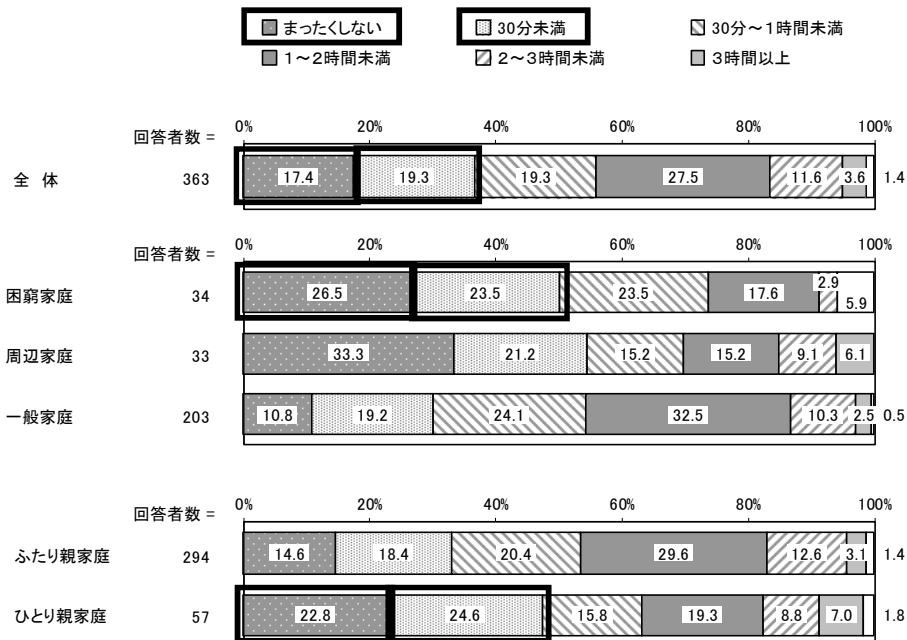
○ 学校がある日に授業以外の勉強を「まったくしない」と回答した割合は、全体では1.8%(小5:1.5%・中2:2.2%)であるのに対し、困窮家庭では5.5%、ひとり親家庭では6.0%と、全体と比べて高くなっている。「30分より少ない」と回答した割合も、困窮家庭では30.9%、ひとり親家庭では19.0%と、全体の15.3%と比べて高くなっている。



子どもの生活状況【学習習慣】

1日あたりの勉強時間(16~17歳)

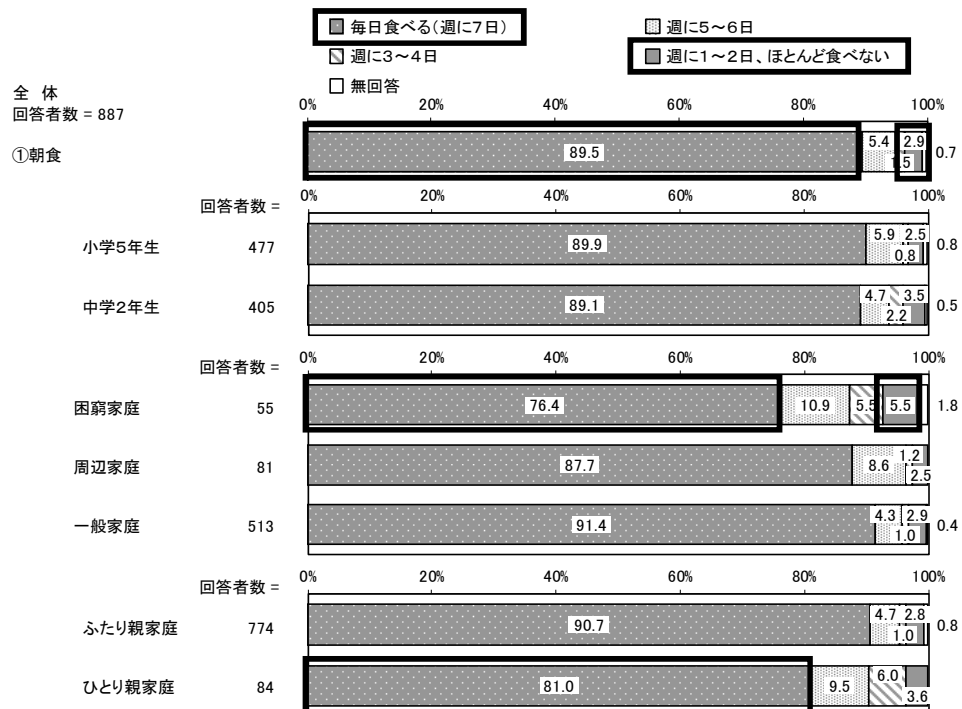
○ 平日、学校の授業以外に勉強を「まったくしない」と回答した割合は、全体では17.4%であるのに対し、困窮家庭では26.5%、ひとり親家庭では22.8%と、全体と比べて高くなっている。
 「30分未満」と回答した割合も、困窮家庭では23.5%、ひとり親家庭では24.6%と、全体の19.3%と比べて高くなっている。



子どもの生活状況【生活習慣】

食事の状況(小5・中2) (朝食)

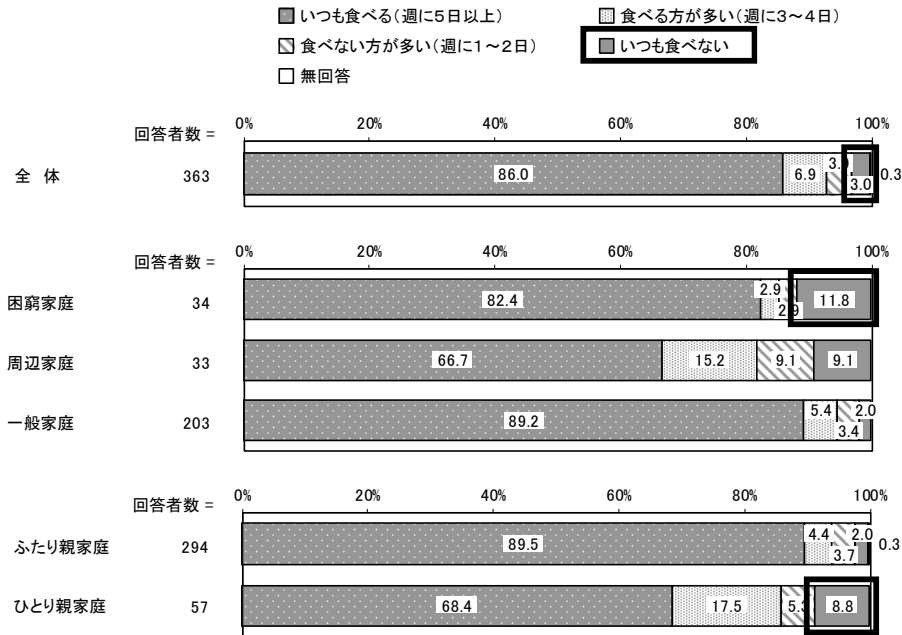
○ 「朝食」を「毎日食べる(週7日)」と回答した割合は、全体では89.5%(小5:89.9%・中2:89.1%)であるのに対し、困窮家庭では76.4%、ひとり親家庭では81.0%と、全体と比べて低くなっている。
 ○ 困窮家庭では「週に1~2日、ほとんど食べない」と回答した割合が5.5%と、全体の2.9%と比べて高くなっている。



子どもの生活状況【生活習慣】

食事の状況(16~17歳)

○ 平日に1日3食を「いつも食べない」と回答した割合は、全体では3.0%であるのに対し、困窮家庭では11.8%、ひとり親家庭では8.8%と、全体と比べて高くなっている。

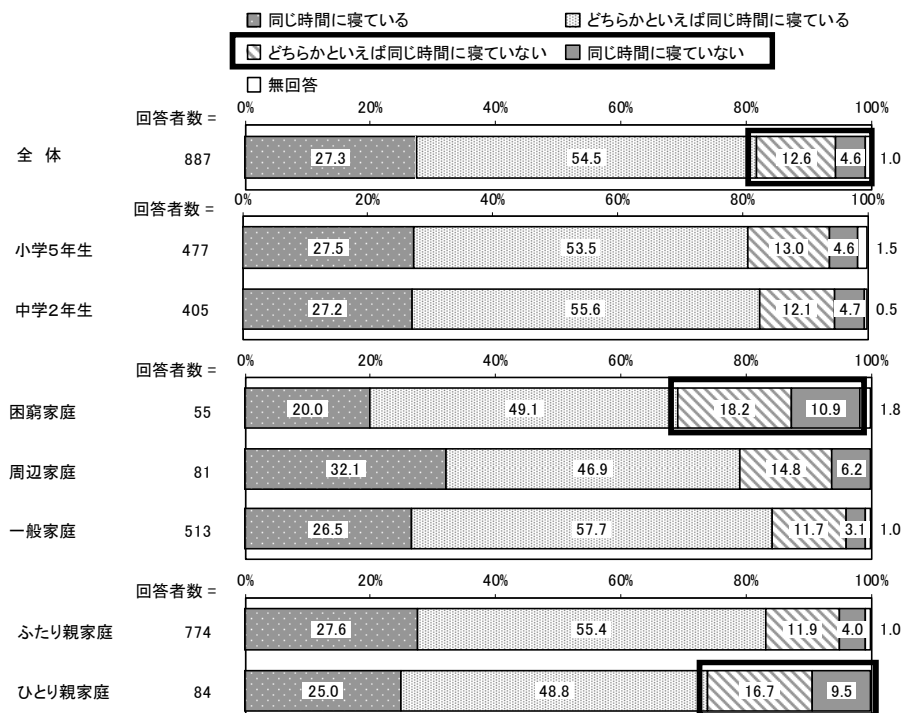


47

子どもの生活状況【生活習慣】

就寝時間(小5・中2)

○ 「ふだんほぼ同じ時間に寝ているか」について、「どちらかといえば同じ時間に寝ていない」と「同じ時間に寝ていない」を合わせた割合は、全体では17.2% (小5:17.6%・中2:16.8%)であるのに対し、困窮家庭では29.1%、ひとり親家庭では26.2%と、他の家庭と比べて高くなっている。

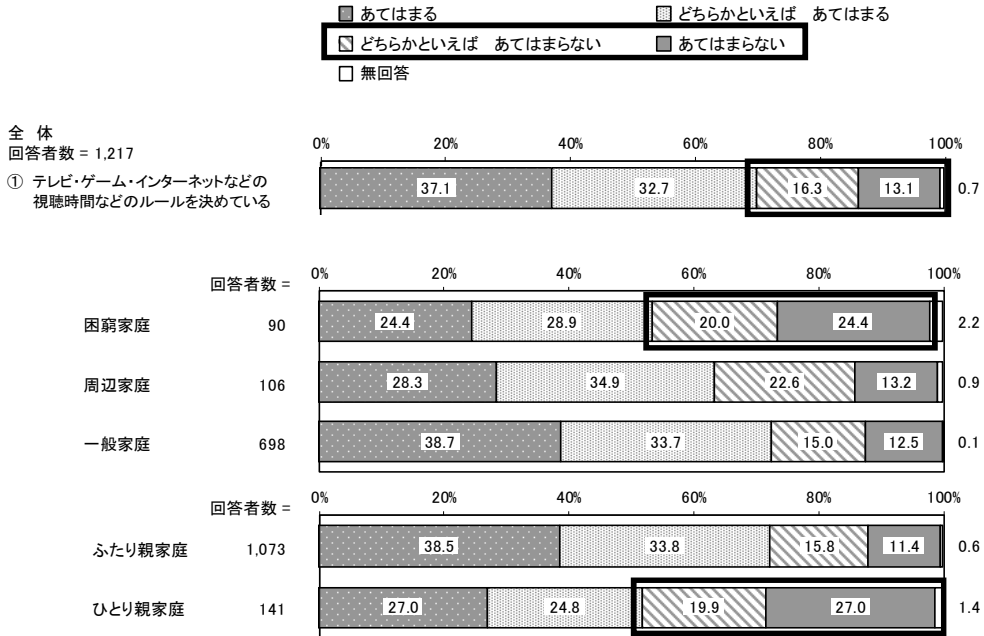


48

子どもの生活状況【生活習慣】

テレビ等の視聴時間のルール

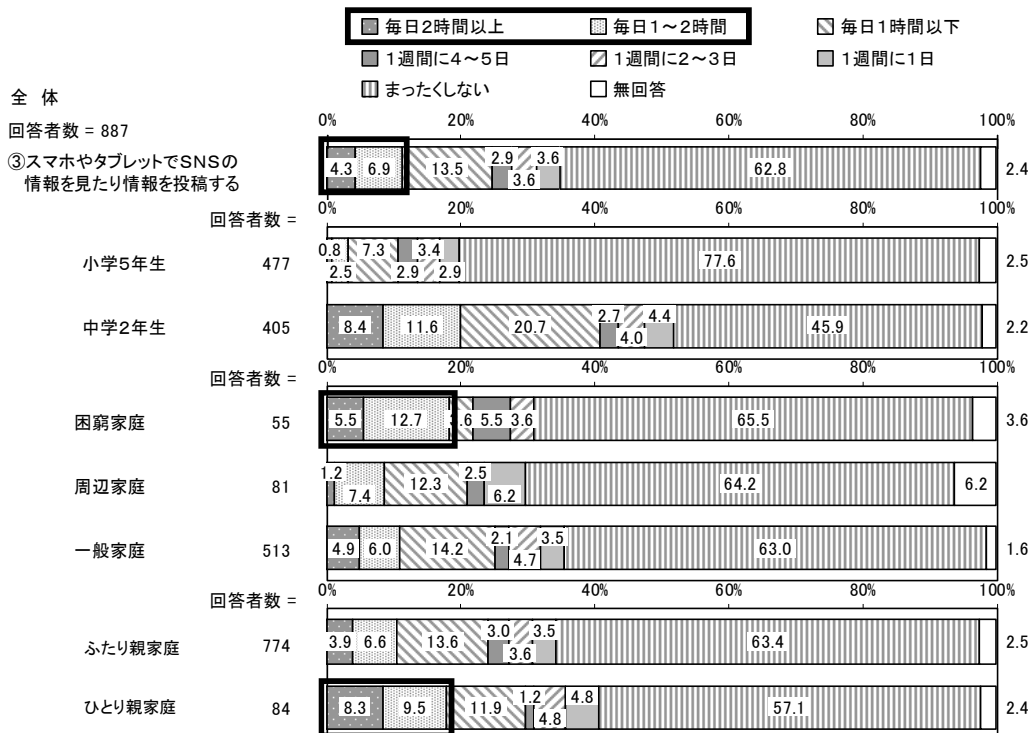
○ 親子の関わり方に関して、「テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている」かについて、「どちらかといえば、あてはまらない」と「あてはまらない」を合わせた「あてはまらない」と回答した保護者の割合は、全体では29.4%であるのに対し、困窮家庭では44.4%、ひとり親家庭では46.9%と、全体と比べて高くなっている。



子どもの生活状況【生活習慣】

スマホやタブレットでSNSの情報を見たり情報を投稿する時間(小5・中2)

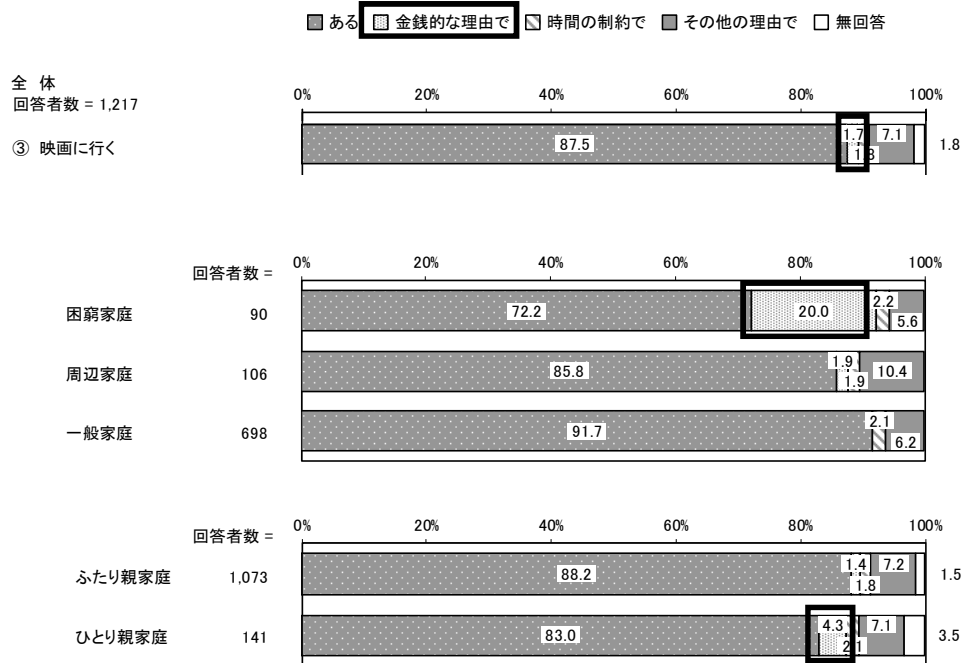
○ 「スマホやタブレットでSNSの情報を見たり情報を投稿する時間」について、「毎日2時間以上」と「毎日1～2時間」を合わせた割合は、全体では11.2%(小5:3.3%・中2:20.0%)であるのに対し、困窮家庭では18.2%、ひとり親家庭では17.8%と、全体と比べて高くなっている。



保護者の生活状況【子どもの体験】

映画に行くこと

○ 子どもの体験に関して、「映画に行く」について「金銭的な理由でさせていない」と回答した割合は、全体では1.7%であるのに対し、困窮家庭では20.0%、ひとり親家庭では4.3%と、全体と比べて高くなっている。

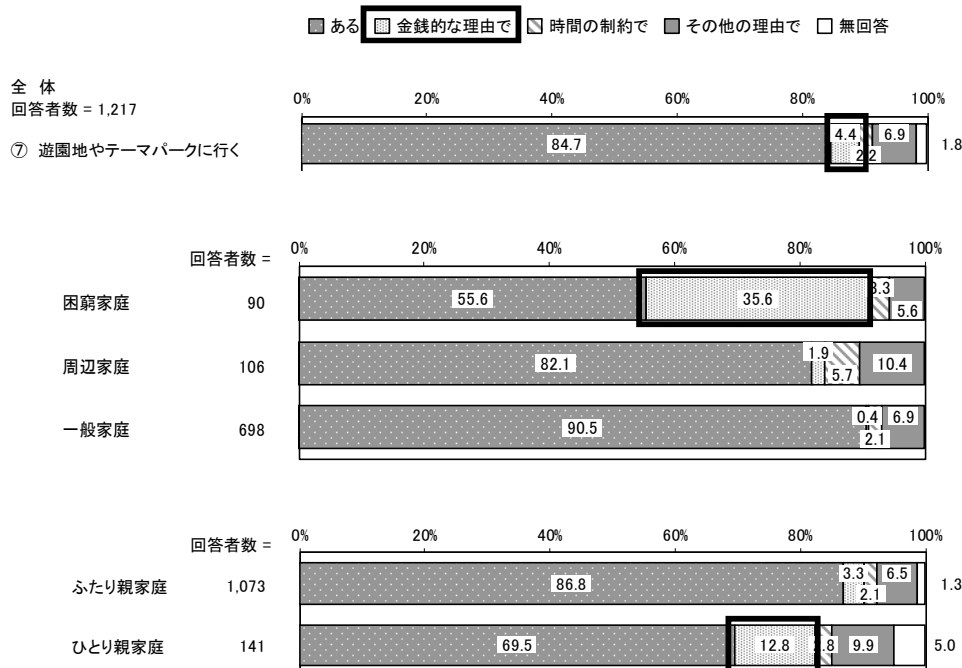


51

保護者の生活状況【子どもの体験】

遊園地やテーマパークに行くこと

○ 子どもの体験に関して、「遊園地やテーマパークに行く」について「金銭的な理由でさせていない」と回答した割合は、全体では4.4%であったのに対し、困窮家庭では35.6%、ひとり親家庭では12.8%と、全体と比べて高くなっている。



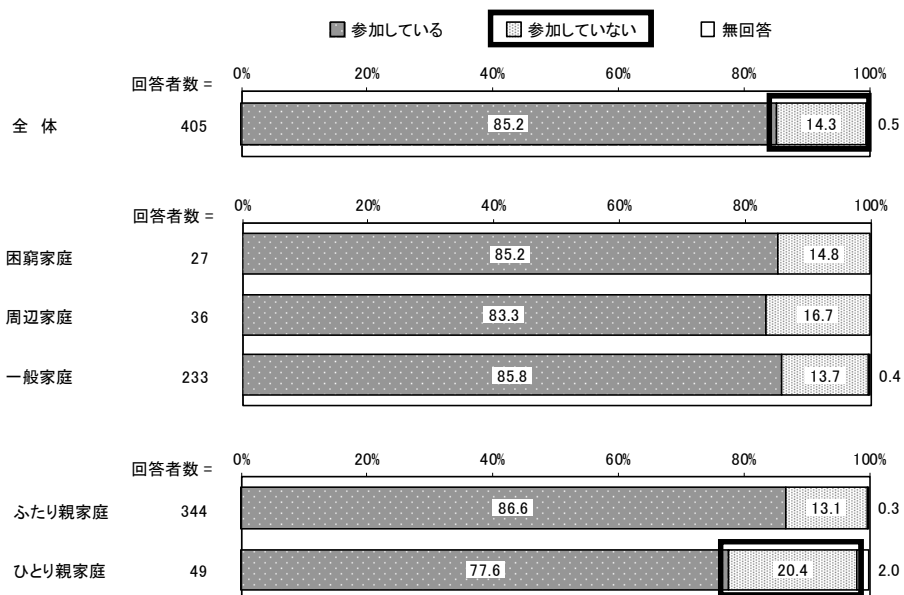
52

○ 困窮家庭やひとり親家庭の子どもほど地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動への参加機会が限られ、人間関係や他人とのつながりを獲得しにくくなっている。

子どもの生活状況【部活動等への参加状況】

スポーツクラブや文化クラブ、部活動等への参加状況(中2)

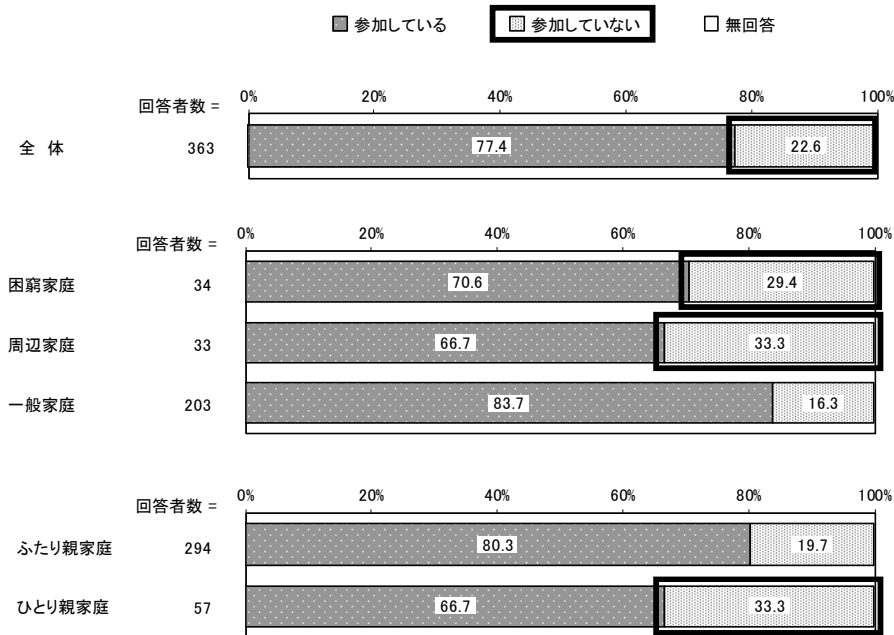
○ 地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動に「参加していない」と回答した割合は、全体では14.3%であるのに対し、ひとり親家庭で20.4%と、全体と比べて高くなっている。



子どもの生活状況【部活動等への参加状況】

学校や職場・地域のクラブ・部活動やスポーツ活動への参加状況(16~17歳)

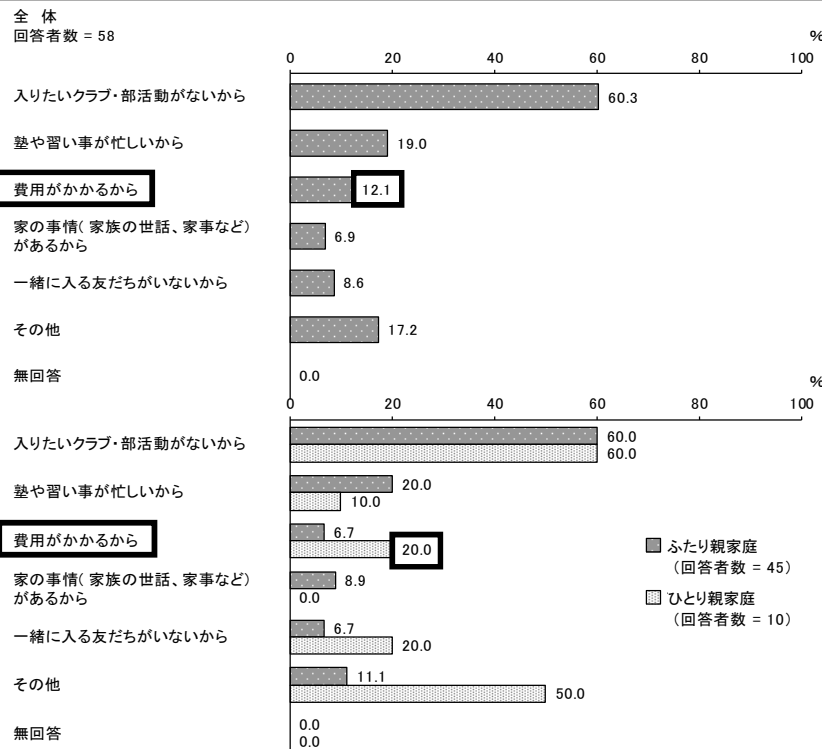
○ 学校や職場・地域のクラブ・部活動やスポーツ活動に「参加していない」と回答した割合は、全体では22.6%であるのに対し、困窮家庭では29.4%、周辺家庭では33.3%、ひとり親家庭では33.3%と、全体と比べて高くなっている。



子どもの生活状況【部活動等への参加状況】

部活動等に参加していない理由(中2)

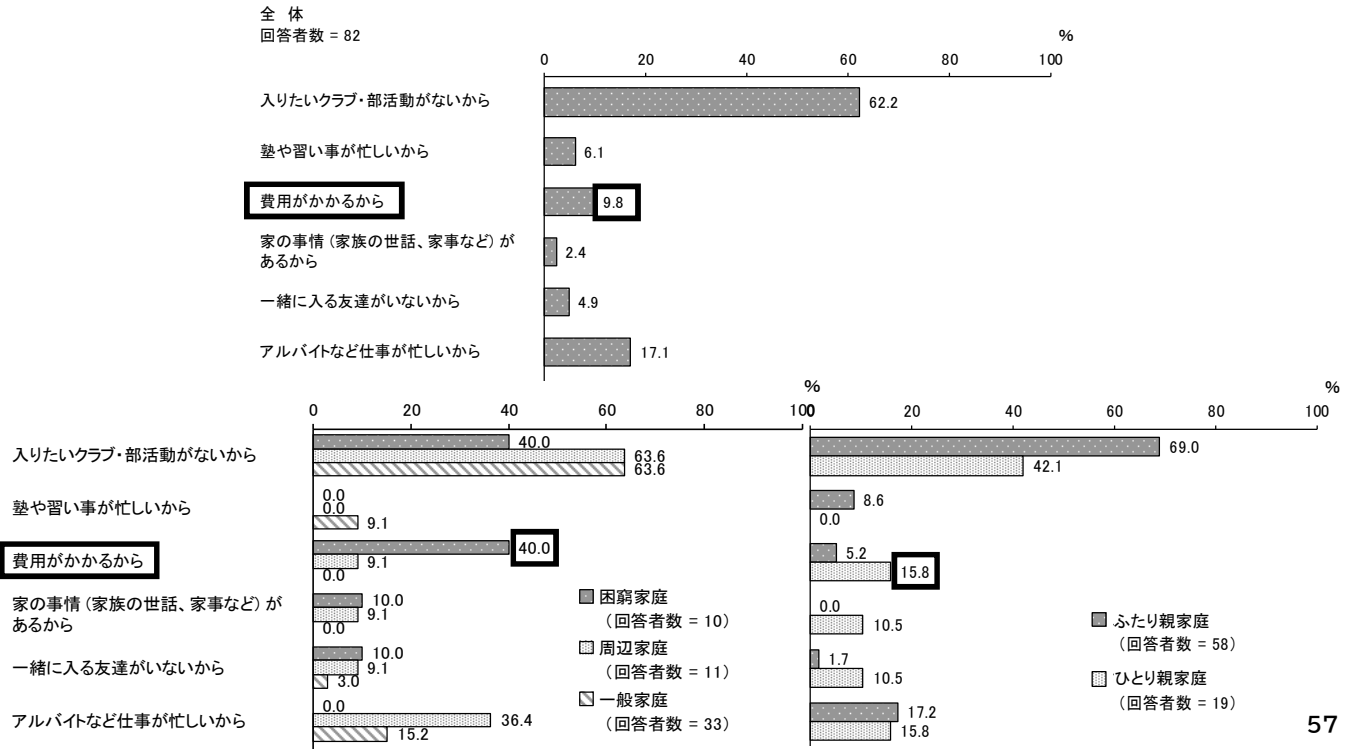
○ 地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動に参加していない理由として「費用がかかるから」と回答した割合は、全体では12.1%であるのに対し、ひとり親家庭では20.0%と、全体と比べて高くなっている。



子どもの生活状況【部活動等への参加状況】

部活動等に参加していない理由(16~17歳)

○ 学校や職場・地域のクラブ・部活動やスポーツ活動に参加していない理由として、「費用がかかるから」と回答した割合は、全体では9.8%であるのに対し、困窮家庭では40.0%、ひとり親家庭では15.8%と、全体と比べて高くなっている。

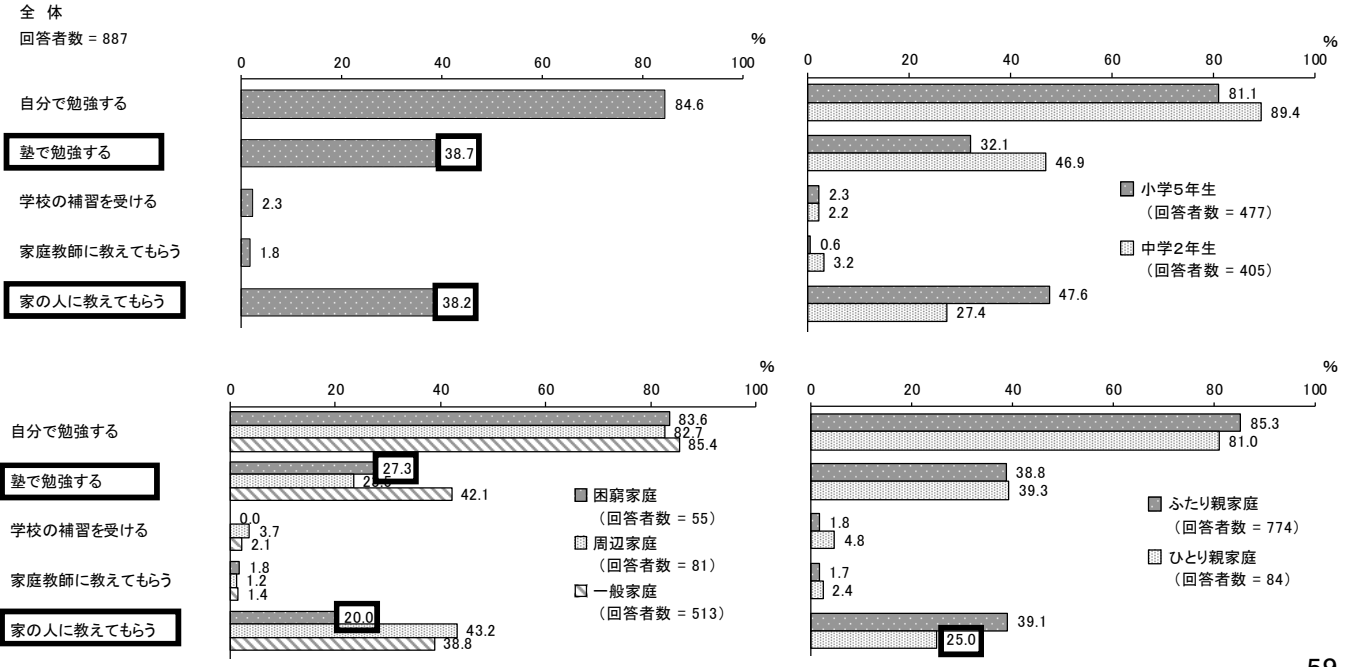


○ 困窮家庭やひとり親家庭の子どもほど親が子どもの勉強をみることができず、親が子どもの相談相手になっていない。また、自分の家が安心できる居場所になっていない傾向にある。

子どもの生活状況【学習の状況】

ふだんの勉強の仕方(小5・中2)

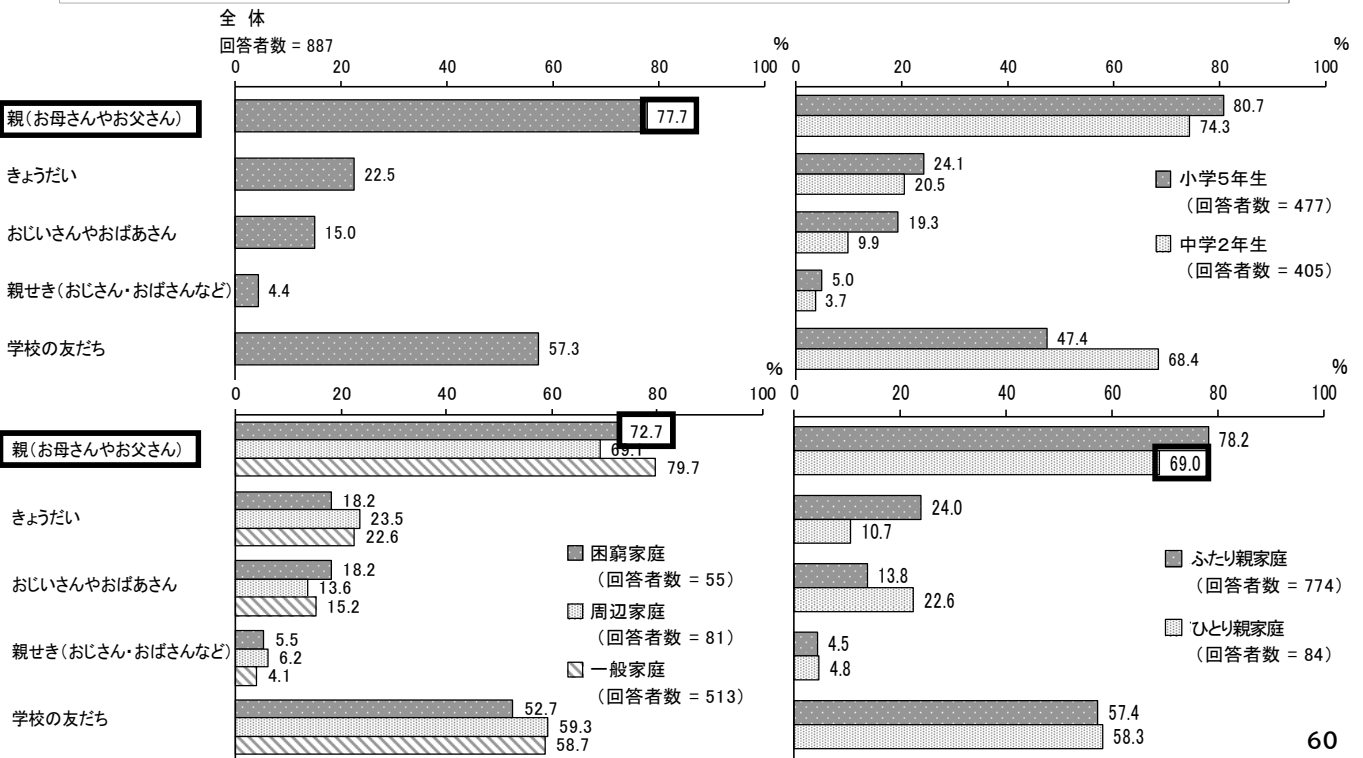
○ 学校の授業以外で勉強を「塾で勉強する」と回答した割合は、全体では38.7%(小5:32.1%・中2:46.9%)であるのに対し、困窮家庭で27.3%と、全体と比べて低くなっている。
 「家の人に教えてもらう」と回答した割合は、全体では38.2%(小5:47.6%・中2:27.4%)であるのに対し、困窮家庭で20.0%、ひとり親家庭では25.0%と、全体と比べて低くなっている。



子どもの生活状況【相談相手】

困りごとや悩みごと、心配ごとがあるときの相談相手(小5・中2)

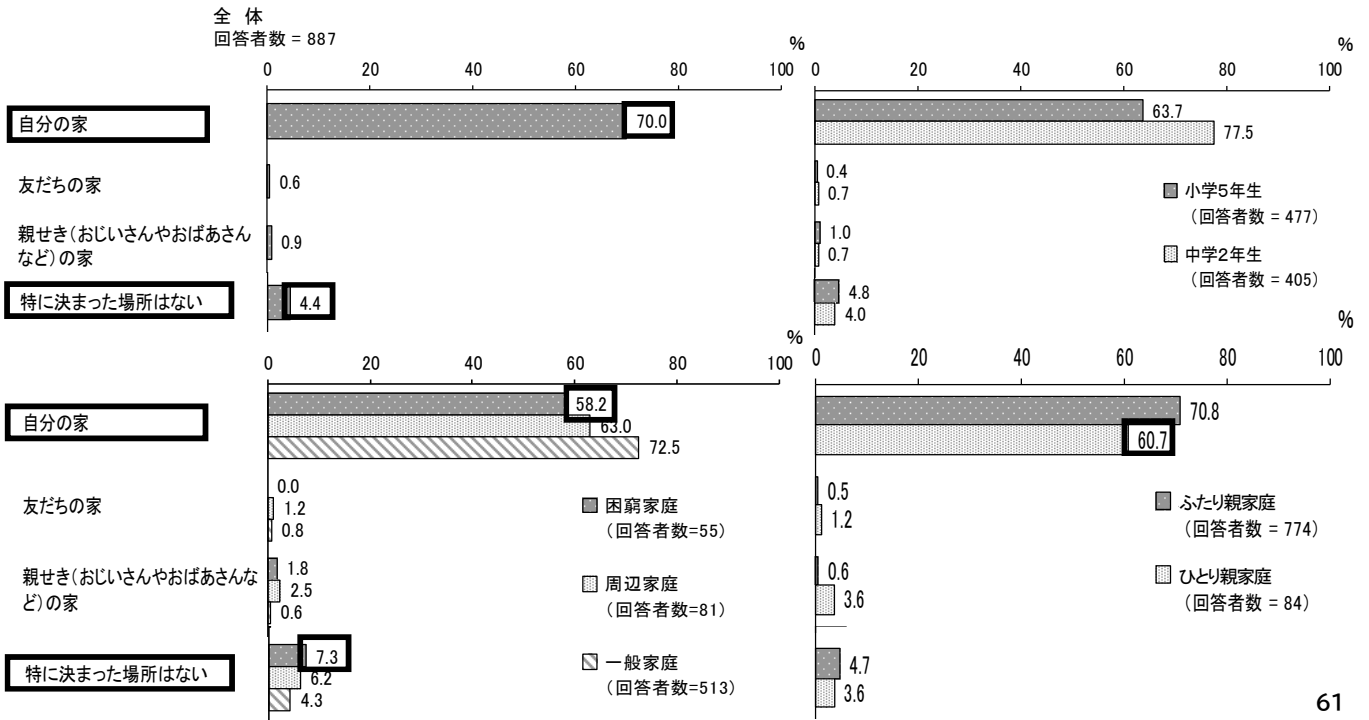
○ 困っていることや悩みごと、心配ごとがあるとき相談する人について、「親(お母さんやお父さん)」と回答した割合は、全体では77.7%(小5:80.7%・中2:74.3%)であったのに対し、困窮家庭では72.7%、ひとり親家庭では69.0%と、全体と比べて低くなっている。



子どもの生活状況【居場所】

一番ほっとできる居場所(小5・中2)

○「一番ほっとできる居場所」について、「自分の家」と回答した割合は、全体では70.0% (小5:63.7%・中2:77.5%)であるのに対し、困窮家庭では58.2%、ひとり親家庭では60.7%と、全体と比べて低くなっている。「特に決まった場所はない」と回答した割合は、全体の4.4% (小5:4.8%・中2:4.0%)に対し、困窮家庭では7.3%と、全体に比べて高くなっている。

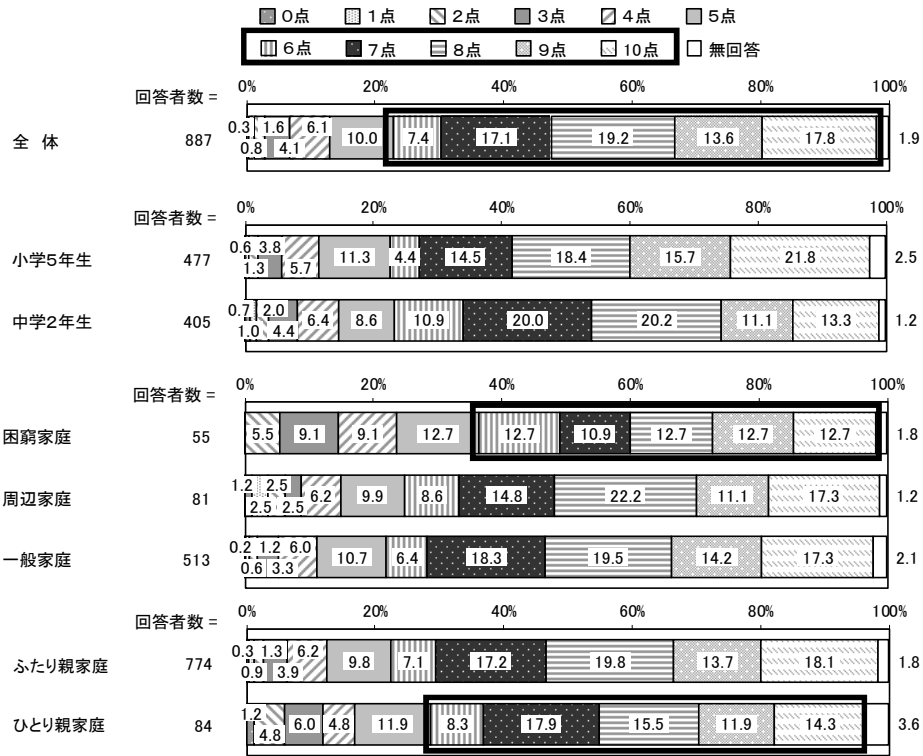


○ 困窮家庭やひとり親家庭ほど生活満足度や自己肯定感が低く、将来への期待も持ちにくい状況にある。

子どもの生活状況【生活満足度】

生活満足度(小5・中2)

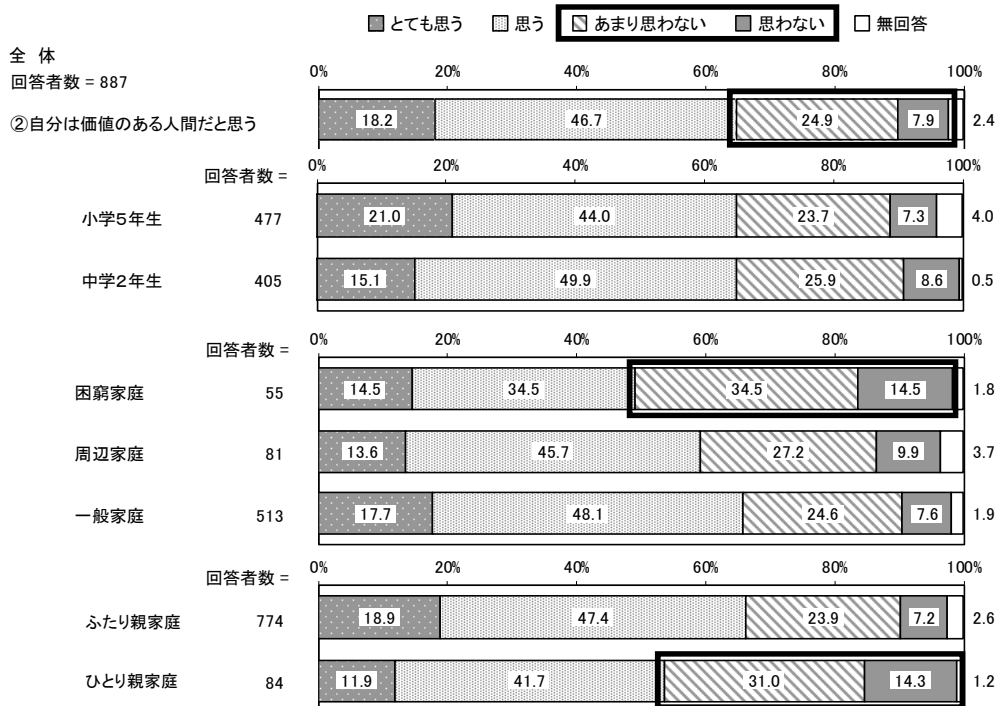
○生活満足度について、「6～10」(満足度が高い方の回答)に該当する割合は、全体では75.1% (小5:74.8%・中2:75.5%)であるのに対し、困窮家庭では61.7%、ひとり親家庭では67.9%と、全体と比べて低くなっている。



子どもの生活状況【自己肯定感】

自分は価値のある人間だと思うか(小5・中2)

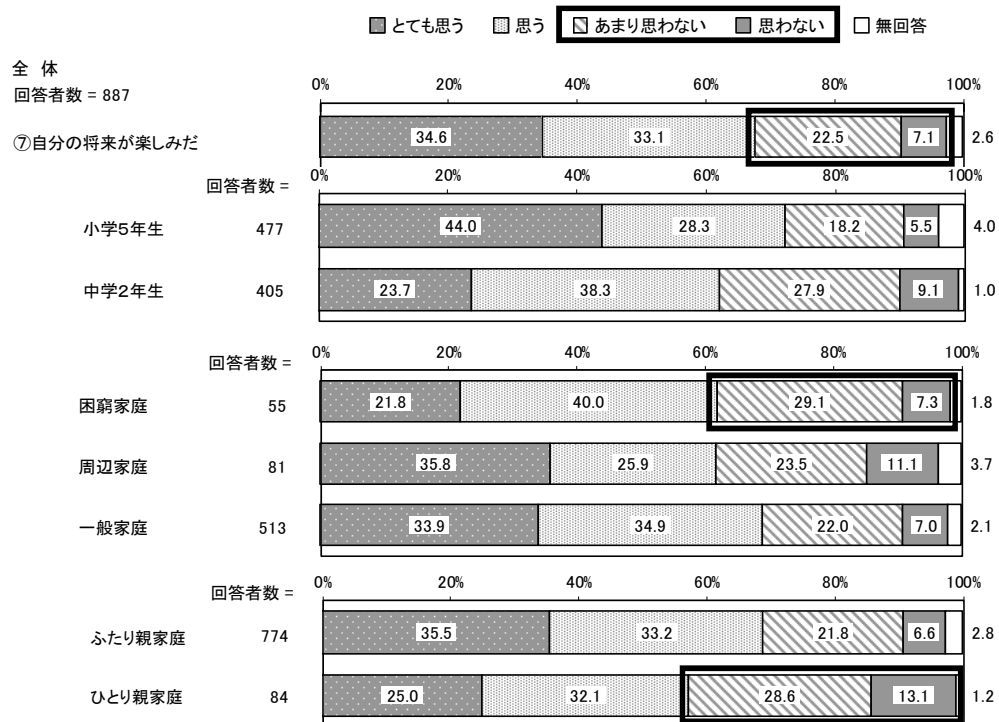
○「自分は価値のある人間だと思わない」「あまり思わない」と「思わない」の合計)と回答した割合は、全体では32.8% (小5:31.0%・中2:34.5%)であるのに対し、困窮家庭では49.0%、ひとり親家庭では45.3%と、全体と比べて高くなっている。



子どもの生活状況【自己肯定感】

自分の将来が楽しみだと思うか(小5・中2)

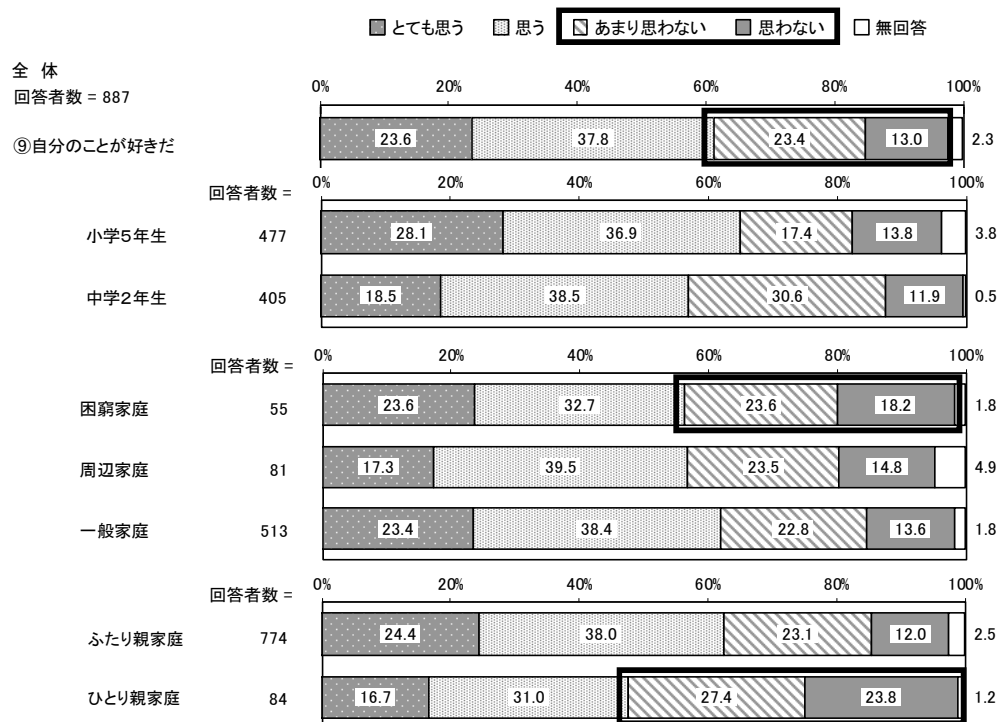
○「自分の将来が楽しみだと思わない」(「あまり思わない」と「思わない」の合計)と回答した割合は、全体では29.6%(小5:23.7%・中2:37.0%)であるのに対し、困窮家庭では36.4%、ひとり親家庭では41.7%と、全体と比べて高くなっている。



子どもの生活状況【自己肯定感】

自分のことが好きだと思うか(小5・中2)

○「自分のことが好きだと思わない」(「あまり思わない」と「思わない」の合計)と回答した割合は、全体では36.4%(小5:31.2%・中2:42.5%)であるのに対し、困窮家庭では41.8%、ひとり親家庭では51.2%と、全体と比べて高くなっている。



台風19号災害や新型コロナウイルス 感染症の影響

67

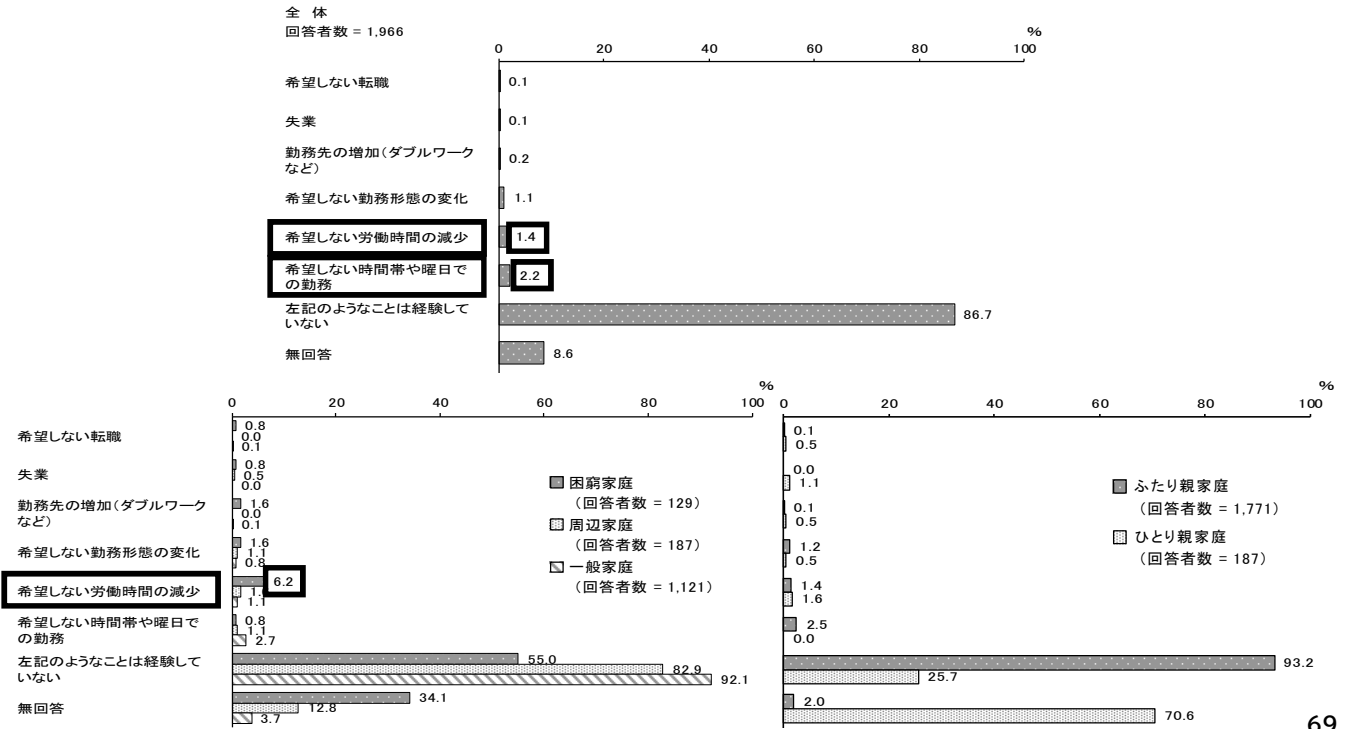
- 困窮家庭やひとり親家庭ほど、台風19号災害や新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、就労や生活の状況がさらに厳しくなっているととも、子どもの学習や生活面に影響を及ぼしている。

68

台風19号災害の影響【保護者の状況】

就労への影響(父親)

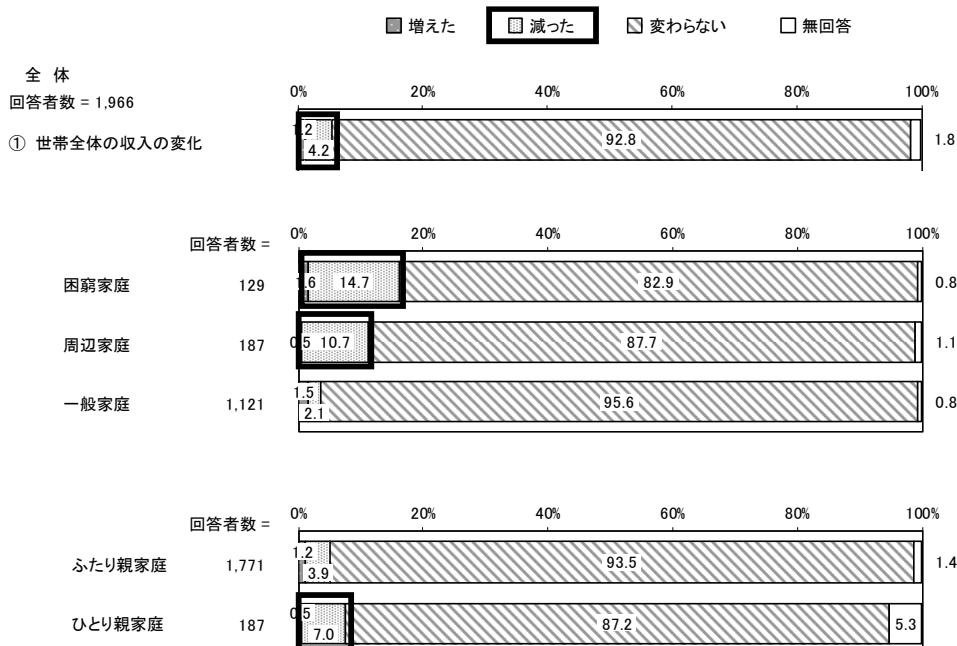
○ 台風19号災害が「父親」の就労に及ぼす影響について、経験した項目では「希望しない時間帯や曜日の勤務」が2.2%、次いで「希望しない労働時間の減少」が1.4%となっている。困窮家庭では、「希望しない労働時間の減少」が6.2%と全体と比べて高くなっている。



台風19号災害の影響【保護者の状況】

世帯全体の収入の変化

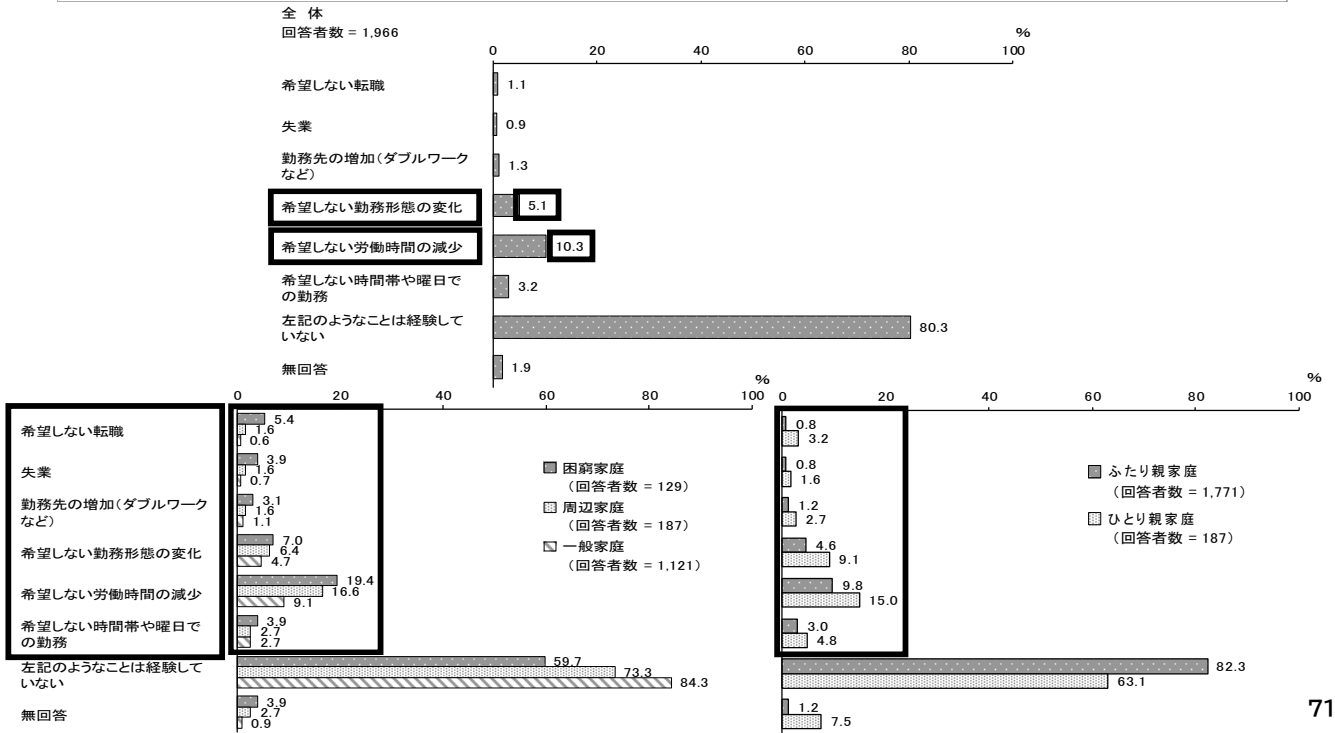
○ 台風19号災害の影響で、「世帯全体の収入の変化」が「減った」と回答した割合は、全体では4.2%であるのに対し、困窮家庭では14.7%、周辺家庭では10.7%、ひとり親家庭では7.0%と、全体と比べて高くなっている。



新型コロナウイルス感染症の影響【保護者の状況】

就労への影響(母親)

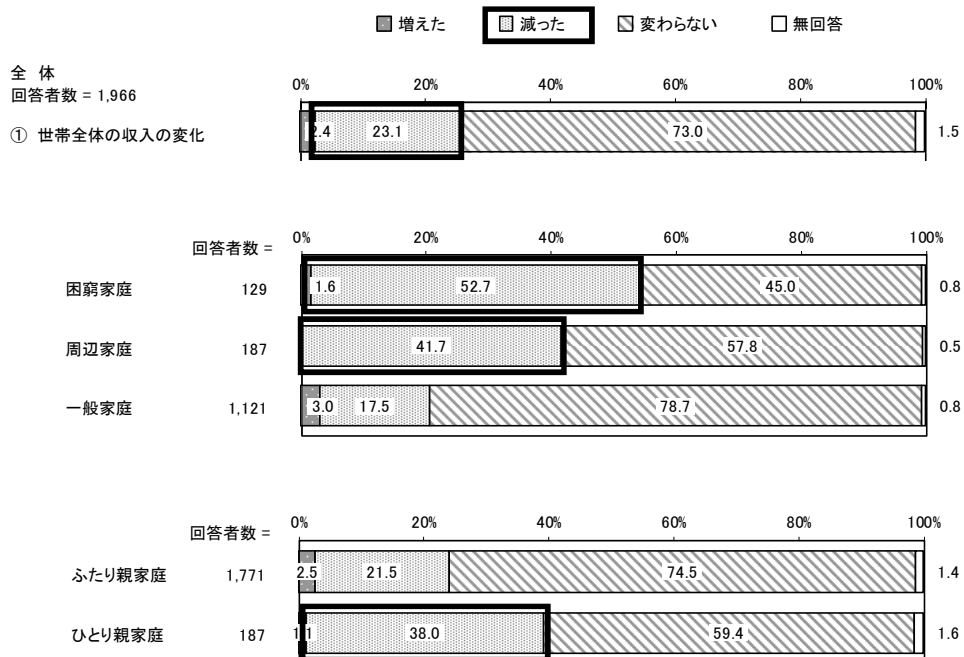
○ 新型コロナウイルス感染症の拡大が「母親」の就労に及ぼす影響について、経験した項目では「希望しない労働時間の減少」が10.3%と最も高く、次いで「希望しない勤務形態の変化」が5.1%となっている。困窮家庭・周辺家庭、ひとり親家庭では、経験した各項目を回答した割合が全体と比べて高くなっている。



新型コロナウイルス感染症の影響【保護者の状況】

世帯全体の収入の変化

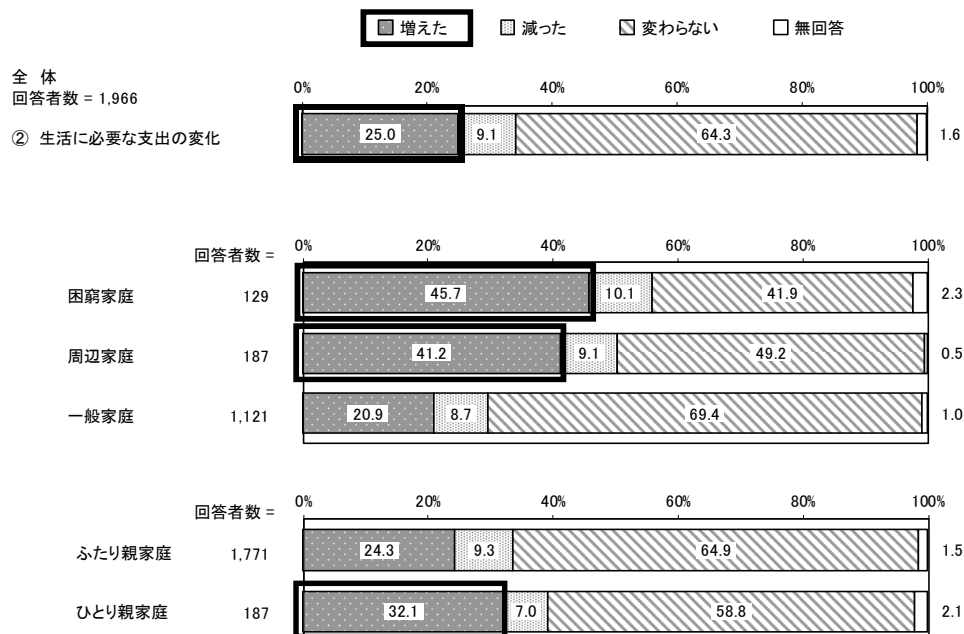
○ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、「世帯全体の収入の変化」が「減った」と回答した割合は、全体では23.1%であるのに対し、困窮家庭では52.7%、周辺家庭では41.7%、ひとり親家庭では38.0%と、全体と比べて高くなっている。



新型コロナウイルス感染症の影響【保護者の状況】

生活に必要な支出の変化

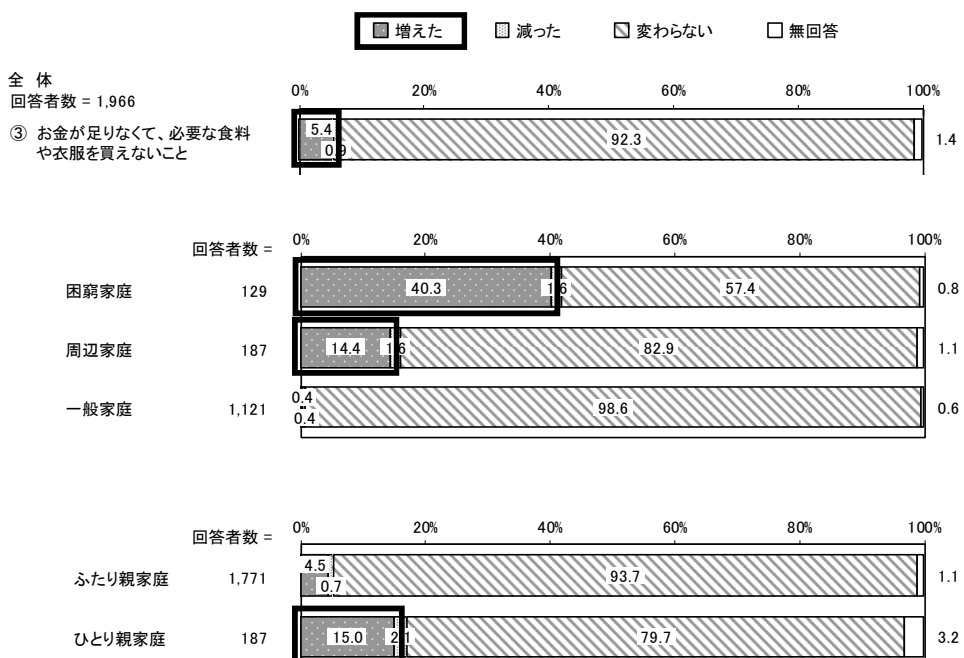
○ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、「生活に必要な支出の変化」について「増えた」と回答した割合は、全体では25.0%であるのに対し、困窮家庭では45.7%、周辺家庭では41.2%、ひとり親家庭では32.1%と、全体と比べて高くなっている。



新型コロナウイルス感染症の影響【保護者の状況】

お金が足りなくて、必要な食料や衣服を買えないこと

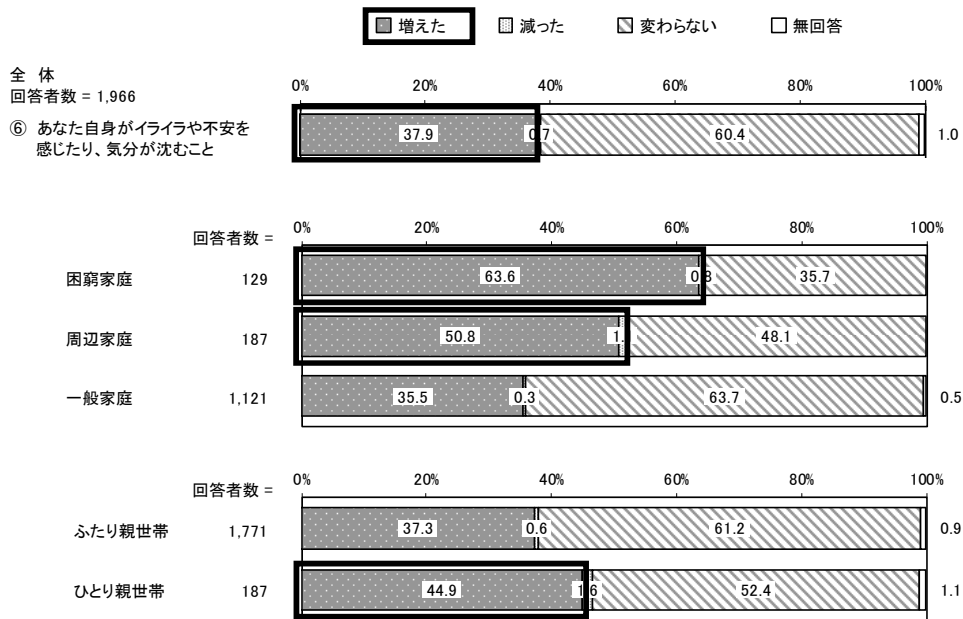
○ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、「お金が足りなくて、必要な食料や衣服を買えないこと」が「増えた」と回答した割合は、全体では5.4%であるのに対し、困窮家庭では40.3%、周辺家庭では14.4%、ひとり親家庭では15.0%と、全体と比べて高くなっている。



新型コロナウイルス感染症の影響【保護者の状況】

イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと

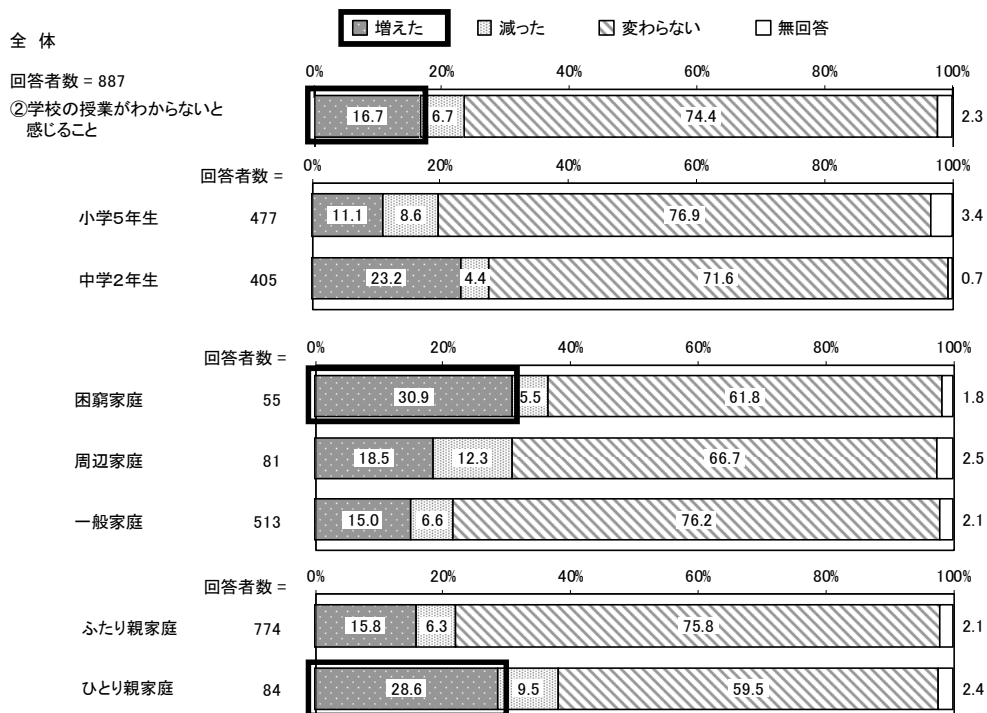
○ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、「あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと」が「増えた」と回答した割合は、全体では37.9%であったのに対し、困窮家庭では63.6%、周辺家庭では50.8%、ひとり親家庭では44.9%と、全体と比べて高くなっている。



新型コロナウイルス感染症の影響【子どもの状況】

学校の授業がわからないと感じること(小5・中2)

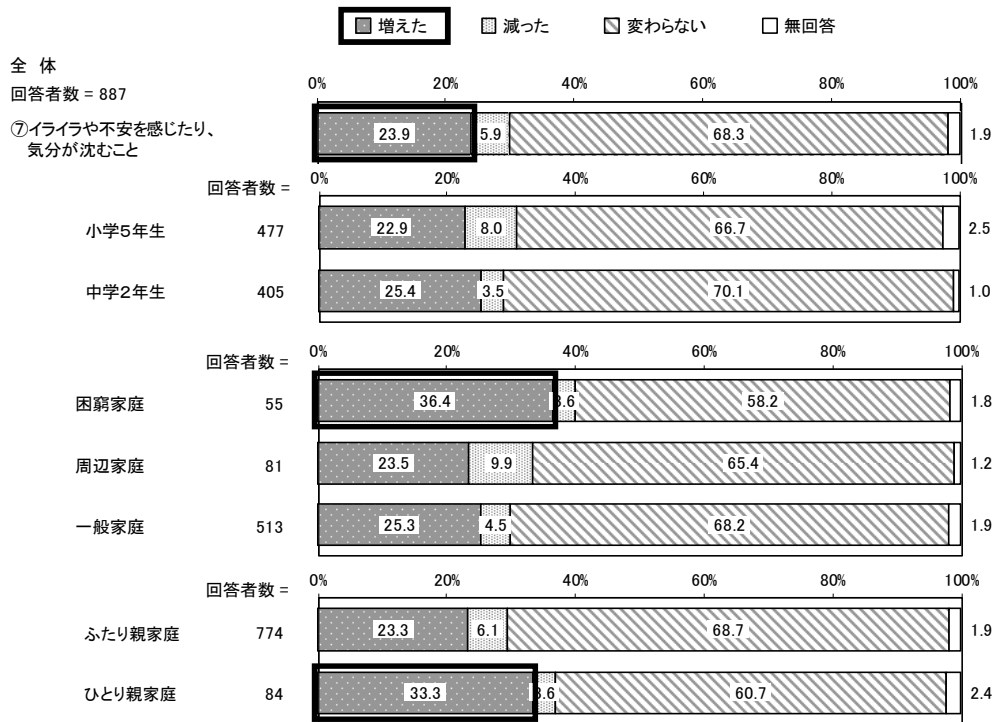
○ 新型コロナウイルス感染症の影響で、「学校の授業がわからないと感じること」が「増えた」と回答した割合は、全体では16.7%(小5:11.1%・中2:23.2%)であるのに対し、困窮家庭では30.9%、ひとり親家庭では28.6%と、全体と比べて高くなっている。



新型コロナウイルス感染症の影響【子どもの状況】

イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと(小5・中2)

○ 新型コロナウイルス感染症の影響で、「イライラや不安を感じたり気分が沈むこと」が「増えた」と回答した割合は、全体では23.9%(小5:22.9%・中2:25.4%)であるのに対し、困窮家庭では36.4%、ひとり親家庭では33.3%と、全体と比べて高くなっている。



支援の利用状況・ニーズ

○ 困窮家庭の中には、制度を知らなかったり手続きが分からず、必要な人に必要な支援が届いていない可能性がある。

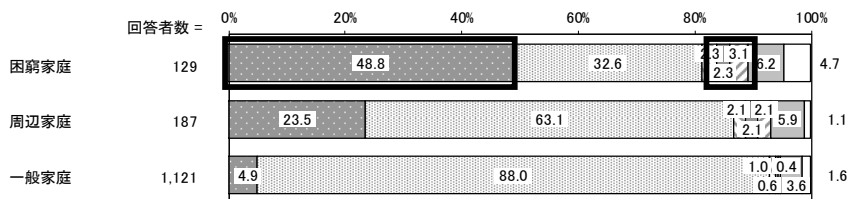
支援の利用状況やニーズ【保護者の状況】

支援の利用状況・支援を利用していない理由

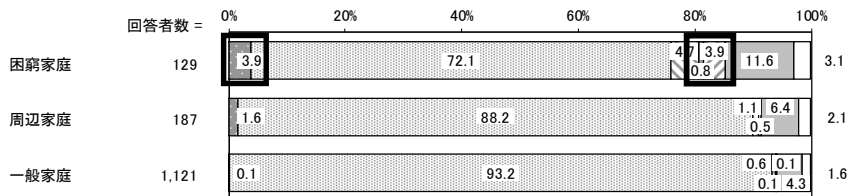
- 困窮家庭で、「就学援助」を「現在利用している」と回答した割合は48.8%、「生活保護」は3.9%、「生活困窮者の自立支援相談窓口(まいさぼ長野市)」は7.0%となっている。
- 困窮家庭で「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」と「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」を合わせた回答は、「就学援助」は5.4%、「生活保護」は4.7%、「生活困窮者の自立支援相談窓口(まいさぼ長野市)」は10.1%となっている。

■ 現在利用している・以前利用したことがある
■ 利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから
■ 制度の対象外(収入などの条件を満たさない)だと思うから
■ 利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから
■ 利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから
■ それ以外の理由
□ 無回答

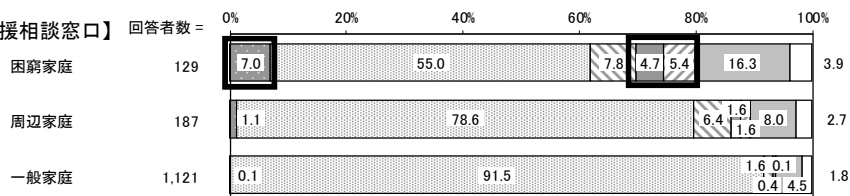
【就学援助】



【生活保護】



【生活困窮者の自立支援相談窓口】

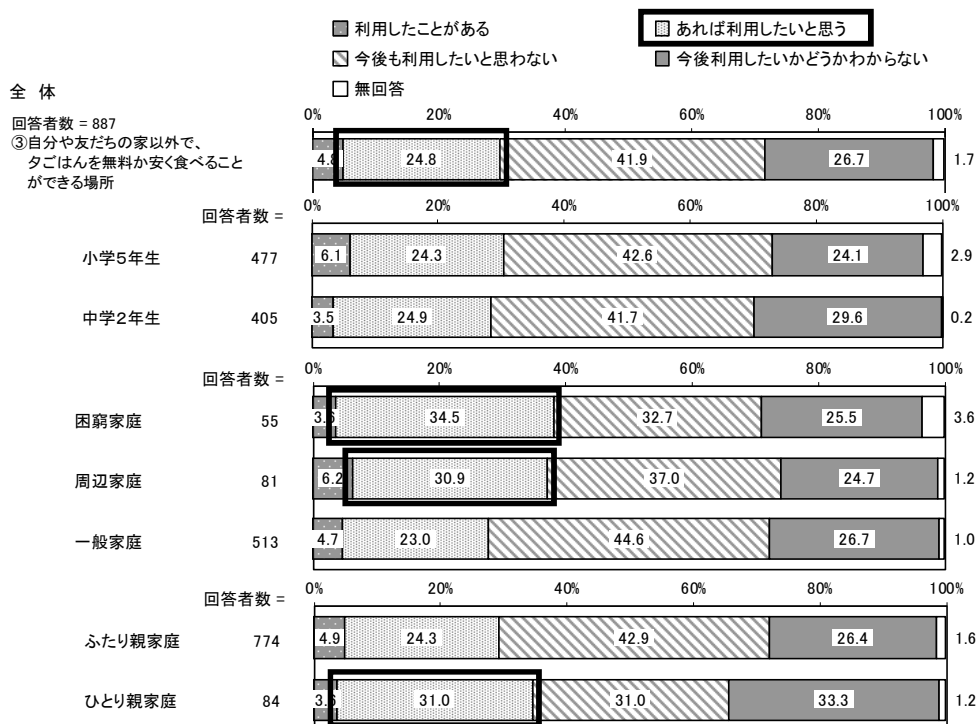


○ 困窮家庭やひとり親家庭の子どもほど食事や学習に関する居場所の利用ニーズが高く、地域の支援団体との連携等により子どもや家庭を支えていく必要がある。

支援の利用状況やニーズ【子どもの状況】

夕ごはんを無料か安く食べることができる場所(小5・中2)

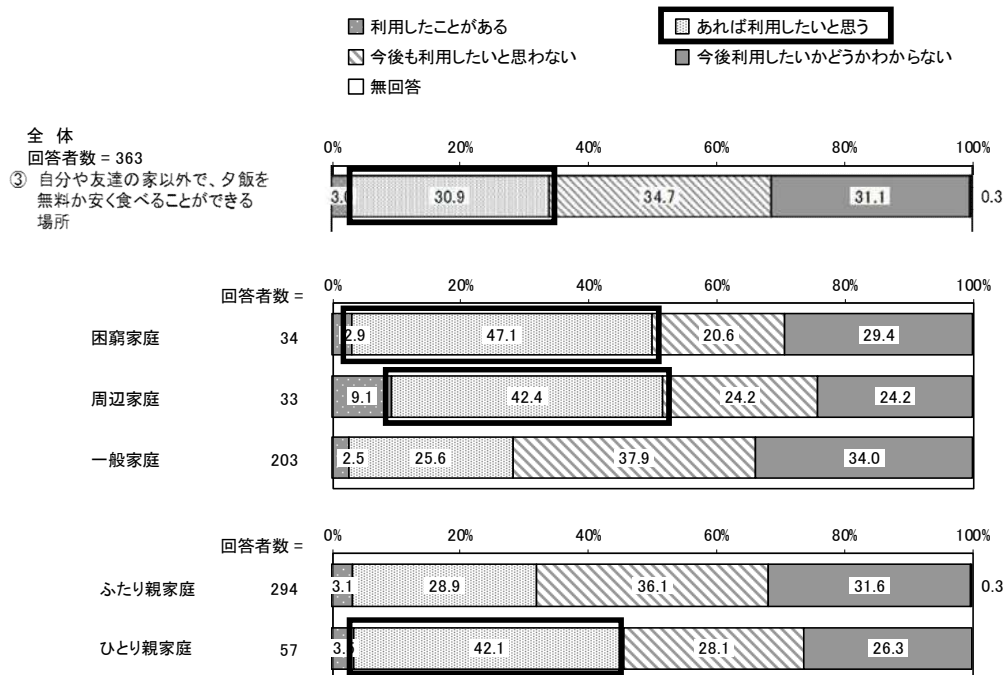
○ 「自分や友だちの家以外で、夕ごはんを無料か安く食べることができる場所」を、あれば利用したいと思う」と回答した割合は、全体では24.8%(小5:24.3%・中2:24.9%)であるのに対し、困窮家庭では34.5%、周辺家庭では30.9%、ひとり親家庭では31.0%と、全体と比べて高くなっている。



支援の利用状況やニーズ【子どもの状況】

夕飯を無料か安く食べることができる場所(16~17歳)

○「自分や友達の家以外で、夕飯を無料か安く食べることができる場所」を、あれば利用したいと思う」と回答した割合は、全体では30.9%であるのに対し、困窮家庭では47.1%、周辺家庭では42.4%、ひとり親家庭では42.1%と、全体と比べて高くなっている。

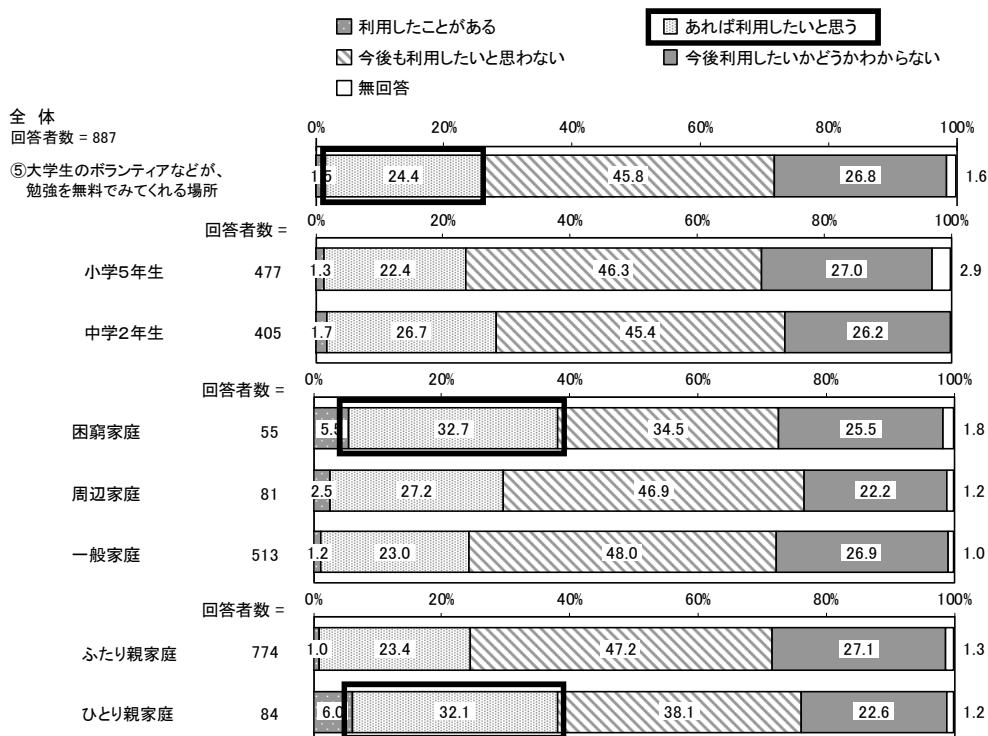


83

支援の利用状況やニーズ【子どもの状況】

勉強を無料でみてくれる場所(小5・中2)

○「大学生のボランティアなどが、勉強を無料でみてくれる場所」を、あれば利用したいと思う」と回答した割合は、全体では24.4%(小5:22.4%・中2:26.7%)であるのに対し、困窮家庭では32.7%、ひとり親家庭では32.1%と、全体と比べて高くなっている。



84

Ⅱ 支援関係者ヒアリング調査

85

支援関係者ヒアリング調査【調査の概要】

調査の概要

目的	数字では表れにくい子どもや家庭の多様な困難の状況や背景、必要な支援等についてヒアリングやアンケート調査を行うことにより、専門家・第三者の立場の視点から現状をとらえ、きめ細かな実態把握を行うことを目的として実施		
対象	地域で活動する団体等	信州こどもカフェ(こども食堂)実施団体、NPO法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト、NPO法人長野県NPOセンター、NPO法人災害時こどものこころと居場所サポート、NPO法人子ども・人権・エンパワメントCAPながの、リサイクル交流広場「回る周るハウス」、主任児童委員	
	教育関係機関等	小・中学校、スクールソーシャルワーカー、県立高校(定時制)	
	子ども関連施設・機関等	児童相談所、乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設、児童家庭支援センター、子育て短期支援事業(ショートステイ・トワイライトステイ)実施施設、こども広場	
	保健福祉関係機関	保健センター保健師、ながの版ネウボラ母子保健コーディネーター、長野市生活就労支援センター「まいさぼ長野市」	
実施時期	令和3年7月から令和4年3月まで		
ヒアリング内容	子どもや家庭の様子や特徴・抱えている課題、子どもや家庭への支援や対応方法、情報共有・関係機関などとの連携状況、支援にあたっての課題、台風19号災害や新型コロナウイルス感染症拡大による子どもや家庭への影響など		
実施方法	対面ヒアリング(一部はアンケートによる)		

86

支援関係者ヒアリング調査結果のまとめ

87

支援関係者ヒアリング調査結果のまとめ

子どもの様子や特徴・抱えている課題

- 発達や精神面の障害があり、不登校の経験がある
- 生活習慣や食生活の乱れがあり、衛生上の問題を抱えていて、必要な受診ができていない
- 学習の習慣づけがなされておらず、学力に問題がある
- 自尊心や自己肯定感が低く、他者とのコミュニケーションが苦手で、困難を自分から発信できない
- 愛着形成ができていない子ども、ヤングケラーとみられる子どももいる

保護者・家庭の様子や特徴・抱えている課題

- 非正規雇用で就労や収入が不安定である
- ひとり親で子どもとの時間を十分とることが難しい
- 保護者自身の経験不足や知識不足、養育力の低さがあり、子どもとの関わり方が分からず、ネットの情報に依存している
- 精神疾患や障害を抱えていたり、金銭管理能力が低い
- 保護者自身が虐待等困難な環境で育っている
- 核家族化や少子化、市外・県外出身者等により身近に頼る人がおらず孤立状態にあり、SOSを発信できない・相談がしづらい

88

支援関係者ヒアリング調査結果のまとめ

台風19号災害や新型コロナウイルス感染症拡大による子どもや家庭への影響

- 転居が必要になったり、転職・失業、収入減を経験している
- 子ども同士、保護者同士の交流の機会が減少し、情報の不足、経験の不足があるとともに、子どもの発達面への影響がみられる
- 外出できる場所や機会が制限されることによる生活習慣の乱れやストレスがある
- 支援が必要なケースでも感染予防の観点からの利用控えにより、支援が行き届いていない
- 子どもの学力や集団の教育力が低下している

支援にあたっての課題・求められるもの

- 支援が必要であってもそれを発信できない家庭・子どもの実態を把握できる仕組みやアウトリーチ型の支援
- 家庭や子どもに支援の情報を確実に届けられる情報発信の方法
- 個人情報の問題で情報共有が制限され、家庭の状況を把握しきれず、支援に踏み切れない
- 子どもに対する早期からの支援、制度の狭間にいる子どもの支援
- 子どもの状態に応じた個別の支援や多様な居場所
- 貧困に関する市民の関心・理解の向上、そのための情報発信